

# 東北地区大学図書館協議會誌

## 第60号特集

本誌 60 号の歩みと今後への期待

東北大学附属図書館長 常任幹事館館長 野 家 啓 一

平成の大学図書館 ～図書館業務を振り返って～

富士大学学生支援部 部長代理(前図書課長) 井 手 俊 一

1. 東北地区大学図書館協議会総会協議題一覧

(第 54 回総会から第 63 回総会)

2. 東北地区大学図書館協議会略年譜

(昭和 11 年 4 月から平成 20 年 9 月)

3. 東北地区大学図書館協議会誌総目次

(第 51 号から第 59 号)

4. 加盟館紹介

弘前大学附属図書館	58	弘前学院大学附属図書館	88
岩手大学情報メディアセンター図書館	59	岩手医科大学附属図書館	89
東北大学附属図書館	60	富士大学図書館	90
同 医学分館	61	盛岡大学図書館	91
同 北青葉山分館	62	修紅短期大学図書館	92
同 工学分館	63	岩手看護短期大学図書館	93
同 農学分館	64	仙台大学附属図書館	94
宮城教育大学附属図書館	65	仙台白百合女子大学図書館	95
秋田大学附属図書館	66	石巻専修大学図書館	96
同 医学部分館		東北学院大学中央図書館	97
山形大学附属図書館中央図書館	67	同 多賀城キャンパス図書館	
同 医学部分館	68	同 泉キャンパス図書館	
同 工学部分館	69	東北工業大学附属図書館	98
同 農学部分館	70	東北福祉大学図書館	99
福島大学附属図書館	71	東北文化学園大学総合情報センター図書館	100
青森公立大学図書館	72	東北薬科大学附属図書館	101
青森県立保健大学附属図書一館	73	宮城学院女子大学図書館	102
岩手県立大学メディアセンター	74	尚絅学院大学・尚絅学院女子短期大学部図書館	103
宮城大学総合情報センター	75	聖和学園短期大学図書館	104
秋田県立大学図書・情報センター	76	ノースアジア大学附属図書館	105
秋田公立美術工芸短期大学附属図書館	77	東北芸術工科大学図書館	106
国際教養大学図書館	78	羽陽学園短期大学附属図書館	107
山形県立保健医療大学附属図書館	79	山形短期大学附属図書館	108
山形県立米沢女子短期大学附属図書館	80	いわき明星大学図書館	109
会津大学情報センター附属図書館	81	奥羽大学図書館	110
会津大学短期大学部附属図書館	82	郡山女子大学図書館	111
福島県立医科大学附属学術情報センター	83	東日本国際大学・いわき短期大学学術情報センター	112
青森大学・青森短期大学附属図書館	84	日本大学工学部図書館	113
東北女子大学附属図書館	85	桜の聖母短期大学図書館情報センター	114
八戸大学・八戸短期大学図書館	86	福島学院大学図書館情報センター	115
八戸工業大学図書館	87		

# 本誌 60 号の歩みと今後への期待

東北大学附属図書館長 常任幹事館長 野 家 啓 一

本誌『東北地区大学図書館協議会誌』も今回で 60 号を数えるまでになりました。人間で言えば、還暦を迎えたこととなります。常任幹事館としてお祝いを申し上げるとともに、これまでお忙しいなかを本誌の編集に携わり、犬馬の労をとってこられた諸先輩方ならびに現役の図書館職員の皆様に、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

本協議会は戦後すぐの昭和 22 年に発足いたしましたが、会則の第 2 条に「本会は東北地区における大学および国立工業高等専門学校に附属する図書館をもって組織し、図書館の施設、運営、管理などの進歩改善について、相互に連携協力することを目的とする」とありますように、本会の何よりの特徴は、東北地区の国立、公立、私立の各大学図書館が一堂に会して意見を述べ合う唯一の場であることです。加盟館はそれぞれに財政規模や環境条件は異なりますが、大学図書館として共通の問題や悩みを抱えていることも事実です。そうした課題を解決するために、個々の大学の枠を超えて、さまざまな視点から議論しあうことは、問題解決の糸口を探る上でもきわめて貴重な機会といえます。実際、私自身も他大学の取り組みの姿勢や新たな企画の試みについてのお話を伺いながら、今まで気づかなかった切り口に目を開かれる思いのしたことが一再ならずありました。今後とも、この協議会の場を各加盟館の発展のために積極的に活用していただければ幸いです。

加盟館の連携協力の代表的な成果としては、2005 年に協議会の 60 周年記念事業として刊行された『図書館のすすめ—大学図書館利用ガイド—』を挙げることができます。これは 30 頁ほどの小冊子ですが、どの大学図書館にも共通する情報検索やその有効活用の基本的知識について簡にして要をえた仕方で解説がなされており、現在にいたるまで大変好評を博しています。編集には加盟館の 11 大学のスタッフが参加しており、相互協力の一つのモデルケースとして、これか

らの活動に生かしていただければと思います。

ご承知のように、現在の大学図書館にはデジタル化の波が押し寄せており、紙媒体と電子媒体をつなぐハイブリッド図書館の実現、電子ジャーナルの高騰化への対応、機関リポジトリやラーニング・コモンズの整備、アメニティ空間の構築、などが喫緊の課題として突きつけられています。いずれの問題も財政措置が必要なことから、簡単には行きませんが、金のないところは加盟館どうしが知恵を出し合って、何とか解決の道を見出していければと思っています。そのためにも年一回の本協議会での議論、およびその記録としての本誌の役割には重要なものがあります。

時代は移り変わっても、大学図書館が人類の知的資産の収集・保存・公開を通じて、大学構成員ならびに市民に対する学習支援・研究支援・社会貢献を目指す組織であることに変わりはありません。加盟館どうしが切磋琢磨することによって互いに学び合い、協力しながら 21 世紀にふさわしい大学図書館へ向けて歩みを進めることを期待して、本誌 60 号への祝意を表させていただきます。

# 平成の大学図書館

## ～図書館業務を振り返って～

富士大学学生支援部 部長代理（前図書課長） 井手 俊 一

平成に入って、本学の司書講習講師をお願いしていた当時学術情報センター教授の内藤先生から、授業で必要だからインターネットを導入するよう要請があった。

平成3年7月、商用プロバイダと契約し、やっとの思いでインターネットに接続をし、ノード館である東北大学を經由してNACSIS-IRを利用した。仙台に新設したASAHIネットと契約し、電話回線で接続、2400bpsの通信速度であった。また、パソコンは、NEC PC 9801のハードディスクの無いものを使用した。この時、NACSISに接続している大学図書館は、国立が93館、私立49館で、その他を加えても153館程であった。

当時の図書館業務では、目録カードを作成し、分類して請求記号を決定することが専門業務の中心にあったが、このころから急激に進展した目録のデジタル化やその書誌データベースの共有は、目録や分類業務の効率化、迅速化を図り、その事から生じた余裕時間を利用者サービスに向けるよう方向づけられた。

しかし、実際は、急速に進化するパソコンに関することや書誌データなどの業務、また、デジタル資料も出始め、その関係を学ことに追われたように思う。さらに、他大学では電算化が進み、本学でも導入を検討したが、大きな費用がかかることから見送られていた。

本学の図書館総合システムの導入は、平成10年度の新学科設置に合わせて進められ、9年度に導入稼働準備となった。

総合システムの導入は、ネットワーク関係などを含めたシステム管理やその活用を担当する専門の人材を必要とした。

この20年余りの図書館業務は、情報化整備に追われた時間ではなかったかと思う。今、図書館システムも充実しネットワークも高速化した。情報化が落ち着いた今、大学図書館業務を考える必要を思う。

その利用者からみて、研究者には、より高速な情報流通機関としての機能を持ち、学術情報を提供する。学部学生には、学術情報活用教育や学習のための図書館活用指導、さらにこれからは「人間力」を育むための広い教養教育のための図書館活用について、図書館業務の基本として行くよう現場の専門職員が確立する必要があると思います。

# 1. 東北地区大学図書館協議会総会協議題一覧

回	開催年月日	当番大学	協議題
54	11.9.16 ～9.17	盛岡大学・ 盛岡短期大学	1. 新規加盟館について 2. 災害時の協力体制について 3. 役員館の改選について 4. 加盟館の退会について
55	12.9.20 ～9.21	宮城教育大学	1. 災害時の協力体制について 2. 学位論文の複写取り扱いについて 3. 平成13年度以降の合同研修会当番地区について
56	13.9.20 ～9.21	奥羽大学	1. 大学図書館の地域社会への貢献 — 大学図書館の公開を中心に — 2. 研究者及び学生の大学図書館間相互利用手続きについて 3. 役員館の改選について 4. 電子ジャーナル等について — 最近の情報
57	14.9.19 ～9.20	秋田県立大学	1. 東北地区大学図書館間相互利用手続申し合わせ（案）について 2. 大学図書館における情報発信機能の改善について 3. 図書館における情報セキュリティ対策について 4. 収納スペース狭隘化に伴う除籍並びに出版物の廃棄について 5. 加盟館の退会について
58	15.9.18 ～9.19	東北福祉大学	1. 新規加盟館について 2. 大学の授業と密接に連携した学生用図書整備の在り方について 3. 図書館利用者教育について 4. 役員館の改選について 5. 加盟館の退会について
59	16.9.16	山形大学	1. 新規加盟館について 2. 大学図書館の地域貢献・社会貢献の取組みについて 3. 加盟館の退会について 4. 第60回総会記念事業について
60	17.9.15	青森大学・ 青森短期大学	1. 「図書館のすすめ」を他機関等へ配付することについて 2. 東北大学附属図書館のHPに東北地区大学図書館協議会のウェブサイトを開設することについて 3. フレッシュ・パーソンセミナーの開催について 4. 学術奨励賞について 5. 加盟館職員名簿の掲載について 6. 役員館の改選について 7. 加盟館の退会について 8. 合同研修会の在り方について 9. 東北地区大学図書館協議会略年譜の作成について
61	18.9.21	宮城大学	1. 新規加盟館について 2. 東北地区大学図書館協議会学術奨励規程の改正について 3. 学術奨励賞候補論文等審査取扱い要項の改正について 4. 東北地区大学図書館協議会表彰規程について 5. 国際シンポジウム開催の協賛について
62	19.9.20	岩手県立大学	1. 東北地区大学図書館協議会学術奨励規程の改正について 2. 学術奨励賞候補論文等審査取扱い要項の改正について 3. 東北地区大学図書館協議会表彰規程について 4. 東北地区大学図書館協議会の研修について 5. 役員館の改選について
63	20.9.18	いわき明星大学	1. 東北地区大学図書館協議会の研修について ・研修部会の設置について 2. 東北地区大学図書館協議会ウェブサイト運用部会の設置について 3. 東北地区大学図書館協議会誌第60号記念特集号について

## 2. 東北地区大学図書館

総 会			事 項
回次	開催年月日	当 番 館 顧問・来賓 出 席 者	
54	H11. 9 .16 ～ 9 .17	盛岡大学・ 盛岡短期大学	青森県立保健大学図書館、秋田県立大学図書・情報センター加盟 秋田県立大学短期大学附属図書・情報センター退会 (加盟館65) 役員館改選
55	H12. 9 .20 ～ 9 .21	宮城教育大学	
56	H13. 9 .20 ～ 9 .21	奥羽大学	役員館改選
57	H14. 9 .19 ～ 9 .20	秋田県立大学	聖霊女子短期大学図書館退会 (加盟館64)
58	H15. 9 .18 ～ 9 .19	東北福祉大学	尚絅学院大学新規加盟 酒田短期大学、アレン国際短期大学退会 (加盟館63) 役員館改選
59	H16. 9 .16	山形大学	総会日程を1日に短縮 国際教養大学図書・情報センター加盟 弘前大学附属図書館医学部分館、岩手県立宮古短期大学図書館退 会 (加盟館62)
60	H17. 9 .15	青森大学・ 青森短期大学	第60回総会開催に当たり記念事業として「図書館のすすめ」を作 成 加盟館に100部配付 ウェブサイトWG設置 宮城県農業短期大学図書館、秋田桂城短期大学図書館退会 (加盟館60) 役員館改選
61	H18. 9 .21	宮城大学	聖和学園短期大学図書館加盟 (加盟館61)
62	H19. 9 .20	岩手県立大学	学術奨励賞 ウェブサイト「紅花の歴史文化館」及び論文「山形大学附属図書 館の紅花プロジェクト」 東北地区大学図書館協議会表彰規程及び東北地区大学図書館協 議会表彰規程取扱要項を制定 東北地区大学図書館協議会学術奨励規程、東北地区大学図書館協 議会表彰規程及び学術奨励賞候補論文等取扱要項を廃止 東北地区大学図書館協議会研修検討WGの設置 役員館改選
63	H20. 9 .18	いわき明星大学	東北地区大学図書館協議会の研修について ・研修部会の設置について 東北地区大学図書館協議会ウェブサイト運用部会の設置 東北地区大学図書館協議会誌第60号記念特集号の発行

協議会略年譜 (平成11年－平成20年)

表彰者	顧問の推薦	役員館		
		常任幹事館	幹事館	会計監査館
表彰状 ○阿部憲勝氏 ○菅野博氏 ○村岡徹氏 ○戸島勇氏		東北大学	(国)山形大学 (公)福島県立医科大学 (私)秋田経済法科大学 東北文化学園大学	山形県立米沢女子短期大学 宮城学院女子大学
表彰状 ○欠端榮蔵氏 ○京極菊子氏 ○木村元子氏		〃	〃	〃
表彰状 ○鹿内則子氏 ○五十嵐行衛氏 ○千葉龍郎氏 ○柴田淑子氏 ○阿部絹子氏 ○藤原紀子氏 ○大森一彦氏		〃 (再選)	(国)弘前大学 (公)山形県立保健医療大学 (私)仙台白百合女子大学 秋田経済法科大学	秋田県立大学 東北福祉大学
表彰状 ○藤沢和子氏 ○鹿島正子氏 ○岩崎子氏		〃	〃	〃
表彰状 ○對馬信治氏 ○鈴木和子氏 ○渡辺武房氏		〃 (再選)	(国)岩手大学 (公)秋田県立大学 (私)宮城学院女子大学 いわき明星大学	宮城大学 仙台白百合女子大学
表彰状 ○川村隆男氏 ○小松武彦氏 ○前田裕子氏 ○竹田幾雄氏		〃	〃	〃
表彰状 ○湯本智子氏 ○山本衆子氏 ○森脇ちか氏 ○相川晶子氏 ○佐藤百代氏 ○塚田弘子氏 ○栃原孝夫氏 ○竹内佳子氏 ○平賀陽子氏 ○坂本芳廣氏		〃 (再選)	(国)宮城教育大学 (公)宮城大学 (私)岩手医科大学 東北学院大学	岩手県立大学 東北福祉大学
表彰状 ○佐藤正弘氏 ○早坂幸子氏 ○澁谷順子氏 ○鈴木和子氏 ○菅原敏子氏		〃	〃	〃
表彰状 ○佐々木厚子氏 ○吉川文子氏 ○及川恵美子氏 ○菅原育子氏 学術奨励賞 ○山形大学紅花プロジェクト実施ワーキンググループ		〃 (再選)	(国)秋田大学 (公)岩手県立大学 (私)東北福祉大学 郡山女子大学	青森県立保健大学 東北学院大学
		〃	〃	〃

### 3. 東北地区大学図書館協議会誌総目次

#### 第51号(平成12.6)

〈記念講演〉マルチメディア 「鬼百科」と東北の鬼 盛岡大学教授(門屋光昭)	3～8
第54回総会〔盛岡大学・盛岡短期大学〕議事要録	25～35
総会日程・・・11 総会資料・・・12～24 総会出席者名簿・・・36～39 総会スナップ・・・1～2	
総会会場一覧・・・48 〈新規加盟館紹介〉青森県立保健大学附属図書館, 秋田県立大学図書・情報センター・・・9～10 統計年報(平成10年度)・・・40～42 会則・規程・・・43～47 加盟館一覧・・・	
表紙2 加盟館職員名簿・・・49～59	
表紙写真:盛岡大学・盛岡短期大学図書館	

#### 第52号(平成13.6)

〈記念講演〉筆の働き 宮城教育大学教授(加藤豊仍)	3～7
第55回総会〔宮城教育大学〕議事要録	22～31
総会日程・・・8 総会資料・・・9～21 総会出席者名簿・・・32～35 総会スナップ・・・1～2	
総会会場一覧・・・46 防災連絡設置要項・・・36～37 統計年報(平成11年度)・・・38～40	
会則・規程・・・41～45 加盟館一覧・・・表紙2 加盟館職員名簿・・・47～57	
表紙写真:宮城教育大学附属図書館	

#### 第53号(平成14.6)

小規模大学に図書館における利用者教育の実際 — 宮城教育大学附属図書館の事例から — (高橋菜奈子)	3～8
〈記念講演〉中・近世公家文庫の内容と伝来 奥羽大学教授(飯倉晴武)	9～19
第56回総会〔奥羽大学〕議事要録	39～49
総会日程・・・20～21 総会資料・・・22～38 総会出席者名簿・・・50～53 総会スナップ・・・	
1～2 総会会場一覧・・・62 統計年報(平成12年度)・・・54～56 会則・規程・・・57～61	
加盟館一覧・・・表紙2 加盟館職員名簿・・・63～73 表紙写真:奥羽大学図書館	

#### 第54号(平成15.6)

手作り電子図書館奮闘記 — 山形大学附属図書館職員の取り組み — (渡邊愛子, 坂本芳廣, 平賀陽子, 友光健二, 細野美里)	1～27
〈記念講演〉源氏物語と空間 秋田県立大学教授(安原盛彦)	28～35
第57回総会〔秋田県立大学図書・情報センター〕議事要録	52～64
総会日程・・・36～37 総会資料・・・38～51 総会出席者名簿・・・65～68 総会スナップ・・・	
口絵 総会会場一覧・・・72 統計年報(平成13年度)・・・69～71 会則・規程・・・73～80	
加盟館一覧・・・表紙2 加盟館職員名簿・・・81～91	
表紙写真:秋田県立大学図書・情報センター	

#### 第55号(平成16.4)

〈記念講演〉VDT作業者 ことに図書館業務者 VDT障害と健康管理 東北福祉大学名誉教授(川上吉昭)	1～12
第58回総会〔東北福祉大学〕議事要録	33～40
総会日程・・・13 総会資料・・・14～32 総会出席者名簿・・・41～43 総会スナップ・・・口絵	
総会会場一覧・・・47 統計年報(平成14年度)・・・44～46 会則・規程・・・48～55 加盟館	
一覧・・・表紙2 加盟館職員名簿・・・56～66 表紙写真:東北福祉大学図書館	

#### 第56号(平成17.4)

「24時間オープン」図書館を実現して 国際教養大学図書・情報センター長(勝又美智雄)	1～3
第59回総会〔山形大学〕議事要録	21～27
総会日程・・・4 総会資料・・・5～20 総会出席者名簿・・・28～30 総会スナップ・・・口絵	
総会会場一覧・・・34 統計年報(平成15年度)・・・31～33 会則・規程・・・35～42 加盟館	
一覧・・・表紙2 加盟館職員名簿・・・43～52 表紙写真:山形大学附属図書館	

#### 第57号(平成18.4)

図書館の集客力を高めるためのささやかな工夫 東北大学附属図書館工学分館(米澤誠)	1～2
「図書館のすすめ」執筆体験記 福島県立医科大学附属学術情報センター(西戸雅博)	3～4
フレッシュ・パーソンセミナーに参加して 東北福祉大学図書館(稲妻晶子)	5～7
第60回総会〔青森大学・青森短期大学〕議事要録	29～35
総会日程・・・8 総会資料・・・9～28 総会出席者名簿・・・36～38 総会スナップ・・・口絵	
総会会場一覧・・・42 役員館一覧・・・43 統計年報(平成16年度)・・・39～41 会則・規程・・・	
44～51 加盟館一覧・・・表紙2 加盟館職員名簿・・・52～56	
表紙写真:青森大学・青森短期大学附属図書館	

#### 第58号(平成19.4)

山形大学附属図書館の紅花プロジェクト ―「紅花の歴史文化館」誕生記―	
山形大学紅花プロジェクト実施ワーキンググループ	1～10
第61回総会〔宮城大学〕議事要録	27～33
総会日程・・・11 総会資料・・・12～26 総会出席者名簿・・・34～36 総会スナップ・・・口絵	
総会会場一覧・・・40 役員館一覧・・・41 統計年報(平成17年度)・・・37～39 会則・規程・・・	
42～49 加盟館一覧・・・表紙2 加盟館職員名簿・・・50～54	
表紙写真:宮城大学総合情報センター	

#### 第59号(平成20.4)

教職員秘書向けの図書館講習会 ―東北大学附属図書館工学分館における講習会活動の報告―	
東北大学附属図書館工学分館情報教育支援ワーキンググループ	1～5
第62回総会〔岩手県立大学〕議事要録	20～26
総会日程・・・6 総会資料・・・7～19 総会出席者名簿・・・27～29 総会スナップ・・・口絵	
総会会場一覧・・・33 役員館一覧・・・34 統計年報(平成18年度)・・・30～32 会則・規程・・・	
35～42 加盟館一覧・・・表紙2 加盟館職員名簿・・・43～47	
表紙写真:岩手県立大学メディアセンター	

# 弘前大学附属図書館

## 1. 大学の概要

昭和24年(1949年)5月、国立学校設置法により弘前高等学校、青森師範学校、青森青年師範学校、弘前医科大学、青森医科専門学校を包括して、文理学部、教育学部、医学部の3学部を有する弘前大学が設置された。その後、学部や組織の設置、整備等を経て、現在では5学部、6大学院研究科、12学内共同教育研究施設等を備える総合大学として運営されている。

## 2. 附属図書館の歩み

設置当初の附属図書館は、本館、教育学部分館、医学部分館、さらに野辺地分校分室という体制で発足した。現在は本館、医学部分館、保健学科分室の3館室体制で運営されているが、平成21年度中に医学部分館と保健学科分室の業務統合を行う予定である。

## 3. 蔵書数・コレクション

現在の蔵書数は約80万冊。所蔵しているコレクションとして、例えばピーターパン・バリ文庫(「ピーターパン」の著者である英国エジンバラ大学の総長であった、ジェームス・マシュー・バリのほとんどすべての著書及び関係資料206点からなる)、太宰治研究文庫(太宰治没後50周年(平成10年)を記念する研究整備事業(教育学部)によって収集された太宰治関係の資料)、大塚甲山文庫、探珠山房文庫、弘前八幡宮古文書などがある。

## 4. 文系図書整備5ヵ年計画

平成20年度から「文系図書整備5ヵ年計画」を策定し、文系の各学問分野の教育研究に必要な叢書類、資料類、大型コレクションなどの整備・充実を推進している。

## 5. 弘前大学学生『言語力』大賞コンテスト

平成17年度から毎年行われている弘前大学学生『言語力』大賞コンテストは、学生に『言語力』を養ってもらおうという意図の元に附属図書館主催で行っているもので、4,000字程度の文学作品、評論を募集・審査し、優秀作品を表彰している。平成21年度には第5回を創立60周年記念事業の一環として計画している。

## 6. 学術講演会

学生の学術研究に対する意識向上と地域社会への貢献など学術成果の普及を目的として、毎年各分野の著名な研究者を招き学術講演会を開催している。

## 7. 貴重資料保管室

平成20年度に、附属図書館内に貴重資料保管室を設置した。この保管室には、平成20年8月に発見された「津軽領元禄国絵図写」、弘前大学の前身である官立弘前高等学校資料約1,000点の他、特に資料的価値が認められる稀少な和書、中国書、洋書などを保管する予定である。



# 岩手大学情報メディアセンター図書館

## (大学の概要)

本学は盛岡農林専門学校、盛岡工業専門学校、岩手師範学校、岩手青年師範学校の4校を包括し、昭和24年に創立され、現在は人文社会科学部、教育学部、工学部、農学部の4学部で構成されている。図書館は大学発足時に設置され、昭和46年には各分室を新営中央図書館として統合した。その後、附属図書館は平成12年に放送大学岩手学習センターとの合築施設としてリニューアルオープンし、その利用環境が一段と整備された。平成16年から「図書館部門」、「情報処理部門」及び「ミュージアム部門」の3部門で構成される情報メディアセンターの傘下に位置付けられたことは、本学図書館の特色の1つである。

## (蔵書数)

本学の図書館は、約85万1千冊(平成20年3月末日現在)の蔵書を擁し、その中から必要度の高いと思われる蔵書約20万冊を自由に閲覧、貸出できるようにしている。さらに詳しい調査、研究が必要な場合は、電動書庫、積層書庫内の蔵書(約48万6千冊)及び研究室備え付けの蔵書(15万5千冊)も利用できるようになっている。

## (最近の動き)

### ①学生ボランティア活動と単位付与

平成18年度から学生ボランティア「図書館サポーターズ」が活動を開始した。図書館内で書架整理や修繕など、またカウンター業務体験や学外の図書館視察などを行い、図書館についての理解を深めている。平成19年度から活動時間等の条件が整った希望者には、卒業単位とはならないが1単位を与えている。大学教育総合センターの教員が指導し、図書館は活動の場を提供している。

### ②機関リポジトリ

教育学部に引き続き人文社会科学部の紀要を中心に、平成21年度3月現在、約2,700件の論文等を登録した。これまでのアクセス件数は約15万件となっている。

### ③地域貢献

中央図書館開館時から学外者の利用を認めていたが、平成12年度のリニューアルオープン後、学外利用の登録者が年々増加している。夜間(平日午後9時まで)、土・日曜日の開館(平成21年度4月より閉館時間を午後5時から午後6時に変更)は学生及び学外者に喜ばれている。

## (利用状況)

年々入館者数が減ってきていたが、図書館を知ってもらうための各種の方策を検討し、可能なことから実行している。教員から学生への働きかけなどの協力を依頼したり、各種の広報物の配付等に積極的に取り組んできている。その結果、平成20年度後半から利用者は少しずつ増えてきている。

## (課題)

図書館配架以外に、教員の研究室に貸出中の図書が15万冊強あり、この3年間程の間に教員の退職が相次いだことにより、それに伴って返却図書の処理(年間平均返却冊数1万7~1万8千冊)ならびに置き場所に苦慮している。

重複図書の除籍と、除籍した図書の有効利用の検討が必要である。

# 東北大学附属図書館

## (図書館の概要)

東北大学附属図書館（通称「本館」）は、東北帝国大学創立の4年後の明治44年に創設され、平成23年には図書館創立100周年を迎える。図書館が設置された当時は片平地区にあったが、昭和48年に川内地区に移転した。平成2年に同じ敷地内に2号館を新設し、現在、本館は1号館と2号館からなる。平成20年には1号館の耐震改修工事を行った。片平地区の旧本館は現在、史料館として東北大学に関する歴史的資料を保存・公開している。

## (蔵書)

蔵書数は、和漢書約140万冊、洋書約110万冊、雑誌約4万種で、主に文科系の研究科・学部に対応した資料と学部学生対象の全学教育科目に対応した資料を所蔵している。また、国宝2点（「類聚國史」「史記」）、夏目漱石の旧蔵書や自筆資料を集めた「漱石文庫」、江戸学の宝庫と称される「狩野文庫」、和算文庫などの貴重資料を多数所蔵している。その他に、国連寄託図書館（昭和40年に指定）、EU情報センター（昭和45年に指定）として国際機関資料も所蔵している。

## (利用状況)

年間の利用者数は約53万人、そのうち学外の利用者数は約13万人である（平成19年度調べ）。平成21年4月より、1年間の試行ではあるが開館時間を拡大した。平日は8時から22時まで、土日祝日も22時まで開館している。

## (貴重資料の電子化)

本館では約1万7千点の和算資料を所蔵しており、独立行政法人日本学術振興会科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の交付を受けて、平成15年からこれら資料の電子化に着手した。平成16年に「和算ポータル」を新設し、電子化した和算資料の全文画像を順次ウェブで無料公開している。

## (展示活動)

常設展として、本館のエントランスホールにある展示コーナー（平成10年開設）で、本館で所蔵する各種の蔵書を様々なテーマのもとに展示している。また、毎年企画展を開催している。平成17年には展示会場を図書館以外の場所に移して開催し、平成18年と平成20年には宮城県図書館と共催で展示会を行った。展示活動と連動し、狩野文庫・漱石文庫などの貴重な資料をモチーフにした図書館オリジナルグッズの製作・販売も行っている。

## (学習・教育支援活動)

毎年4月に新入生を対象とした図書館オリエンテーションを行っている。本館主催の講習会としては、文系大学院生対象や学部学生対象の文献検索講習会、蔵書検索講習会、新聞記事検索講習会などを開催している。また、学生がレポートや論文を作成するときに必要な、文献や情報を調べるための知識や技能を習得することを目的とした「東北大学生のための情報探索の基礎知識シリーズ」を刊行している。「基本編」「人文社会学編」「自然科学編」「英語版」の4種を刊行しており、「基本編」は学部新入生全員に配布している。「基本編」をテキストに使用した全学教育科目「大学生のための情報検索術」も開講している。



# 東北大学附属図書館医学分館

## (医学分館の概要・歴史)

東北大学附属図書館医学分館は、大正4年(1915)7月、東北帝国大学医科大学の開設にともない、医科分館として設置された。数次の改称・組織の改変を経て、現在は、医学系研究科・医学部、歯学研究科・歯学部、加齢医学研究所および病院などに所属する教職員ならびに学生を主たる利用対象者とする、医学・歯学関係にまたがる専門図書館としての役割を担っている。

医学分館は、医科分館としての設立当初から文献の相互利用を重視し、様々な試みに取り組んできた。その一例として、大正7年(1918)から発行を開始した『医学文献週報』(のち、『医学文献速報』、平成9年(1997)廃止)などが挙げられる。

昭和53年からは、文部省から医学・生物学系外国雑誌センター館としての指定を受け、大阪大学生命科学分館、九州大学医学分館とともに、主として国内未所蔵外国雑誌を収集し、全国の大学、研究機関からの文献複写申し込みに応じている。

## (施設・設備)

昭和59年(1984)1月に完成した現在の医学分館本館は、東北大学星陵キャンパスのほぼ中央に位置し、濃いアイボリーのタイル張りで外装された、3階建ての清楚な建物となっている。平成16年2月には2階建ての別棟を増築した。

メインとなる本館には、洋雑誌のバックナンバー、新着雑誌、図書などが配置されているほか、情報検索コーナー、レファレンスコーナー、研究者閲覧室、研究個室、特別閲覧室、視聴覚室、貴重資料室などが置かれ、利用の接点として機能している。

別棟には、和雑誌のバックナンバーが配置されているほか、2階は閲覧室として利用しており、情報コンセントならびに利用者用パソコンを設置している。

本館・別棟あわせての閲覧座席数は439席、収蔵能力は約42万冊となっている。

## (蔵書数・コレクション)

大正5年(1916)時点では1万冊に満たなかった蔵書は、平成20年度末現在では、図書421,725冊(和漢書166,975冊、洋書254,750冊)、雑誌13,610種類(和雑誌4,658種類、8,952種類)となっている。

貴重なコレクションとして、前野良沢や杉田玄白らによって翻訳され、西洋医学の本格的な紹介書として著名な『解体新書』(1774年)や、前野良沢や杉田玄白に学んだ仙台藩医・大槻玄沢(1757～1827)の書簡などを所蔵している。

さらに、宮城県衛生研究所の創設者で初代所長を務めた青木大輔(1901～1967)が収集した「青木大輔コレクション」、フライブルグ大学やベルリン大学の薬理学教授として高名であったトレンドレンバーグ教授(Paul Trendelenburg 1884～1931)、およびその弟子クライヤー教授(Otto Kraye 1899～1982)に献呈された薬理学・生理学分野の論文別刷のコレクションである Trendelenburg & Kraye's Collection of Scientific Papers などを収めている。



東北大学附属図書館医学分館外観



前野良沢・杉田玄白ら訳『解体新書』(1774年刊)

# 東北大学附属図書館北青葉山分館

## (分館の概要)

東北大学附属図書館北青葉山分館（略称「北分」）は、東北大学の北青葉山キャンパスに所在する部局（理学研究科、薬学研究科など）を主たるサービス対象とする図書館である。その歴史は、理学研究科の前身である東北帝国大学理科大学が創設された明治 44 年（1911）まで遡ることができる。

創立時の理科大学には、書庫・閲覧室はなく、図書は各教室に分散していた。これらの各教室（学科）図書室にあった資料群が、現在の北青葉山分館の基礎となっている。当時の資料収集に関しては、各教室の創始者等を中心として、特色ある文献が集められた。

戦後になると、理学部の青葉山移転と連動して理学系分館設置の機運が高まり、昭和 41 年（1966）には理学部中央図書室が設置されている。そして昭和 42 年（1967）より医学部薬学科（当時）の賛同を得て「理薬分館（仮称）」の概算要求を提出し、昭和 47 年（1972）にこれが認められた。その後、昭和 57 年（1982）にキャンパス名を冠した「北青葉山分館」が設置され、昭和 60 年（1985）に現在の建物が竣工した。現在では理学・薬学・生命科学分野の専門図書館としての役割を担っている。

分館の運営は、分館長、理学研究科・薬学研究科の図書委員会委員長各 1 名、両研究科の附属図書館商議員各 1 名の計 5 名で構成される、運営委員会によって行われている。事務組織としては分館長のもと、管理係 4 名、整理・運用係 6 名を配置し、資料管理・利用者サービス業務を行っている。職員の人数は決して多いとはいえないが、さらなる図書館業務の円滑化・サービス強化を図るよう努めている。

## (蔵書)

現在蔵書数は、和漢書約 74,600 冊、洋書約 293,200 冊、計約 367,800 冊である。データベース未登録資料が多く存在するが、平成 20 年度から「総合目録データベース遡及入力事業」等より整備されつつある。これにより 19 世紀以前の古典的資料も多く登録され、今後学外からの利用も見込まれている。また、平成 19 年度から「キャンパス間搬送サービス」により学内他館の図書も容易に利用できるようになってはいるが、学生用図書の充実が遅れており、課題となっている。

## (利用状況)

平日の開館時間は通常期で 9 時から 20 時までであるが、利用者からの開館時間拡大等の要望もあり、平成 19 年 4 月より北青葉山キャンパスに在籍する教職員・院生・学部生の 24 時間利用が実現した。

## (情報リテラシー教育)

毎年「図書館ツアー」と称して新生オリエンテーションを行っている。授業との関わりでは、理学研究科「英語プレゼンテーション」集中講義の一環としての図書館ツアーや、薬学部「化学実験」の SciFinder 検索実習の補助を行った。また平成 20 年度からは、附属図書館工学分館と共同で「理工系情報教育支援 WG」を組織し、データベース講習会などを実施している。但し、参加者はそれほど多くなく、方法や開催時期など再検討が必要である。

## (今後の課題)

近隣には「北青葉山憩い公園」や「附属薬用植物園」があり、一年を通じて周辺に猫や狸が出没するという、豊かな自然に恵まれた環境に北青葉山分館はある。このような中で研究者や学生の利用に供しているが、近年は電子ジャーナルの普及に伴い、入館者数の減少が顕著になっている。また、学生用図書の充実や、PC 端末の増設や無線 LAN の整備といった研究・教育の ICT 化への対応、東北帝国大学理科大学創設以来の蓄積がある自然科学系古典資料の整理・保存とその活用など、課題も多い。これらについては、学生アンケートや、平成 20 年度から新たに開始した教員インタビューの結果も参考にして、今後積極的に取り組んでいく予定である。



北青葉山分館外観



“分類学の祖”リンネの著書

# 東北大学附属図書館工学分館



## (分館の概要)

東北大学附属図書館工学分館は、昭和42年(1967)8月に、学生用図書および研究用二次資料を集中管理・運用するために設置された工学部中央図書室に端を発する。昭和53年(1978)には学術文献情報の多様化と異常な量の増大に対応するため、部局の枠を越えた規模と機能を有する分野別図書館として工学分館が創設された。建物は、昭和55年(1980)11月に鉄筋コンクリート2階建て(2,712㎡)で新築されたが、平成7年には増築され、5,355㎡となった。この増築と並行して、各学科に分散していた図書と雑誌が工学分館に集中化され、学科図書室は廃止された。

現在の蔵書数は約33万6千冊(平成20年度末)で、うち洋書は17万5千冊である。所蔵雑誌は約7,600タイトルで、大正8年(1919)の工学部創設以来の学位論文7,610本を所蔵しているのが特色で、パソコンからの検索が可能である。

## (利用状況)

奉仕対象者数は、東青葉山キャンパスの工学部をはじめとする1学部、4研究科等の約7,400人で、平成20年度の利用者数は約10万6千人、貸出冊数は3万5千冊であった。開館時間は平日9時から20時までであるが、東青葉山キャンパスに在籍する利用者は、身分に関係なく、土、日、休日を含め24時間利用可能である。

## (最近の動き)

当分館における最近の活動として、特徴的なものは、情報探索講習会である。平成17(2005)年度から定期的な講習会を開始したが、それ以来、前年の参加状況や受講者アンケートを踏まえて毎年内容の見直しを行いながら現在に至っている。当初学生向け1メニューでスタートした講習会は、レポート作成法と文献探索法の連続講習、それに教職員秘書向け講習会の新企画を経て、現在は利用者に受講機会と受講内容の選択肢を数多く提供することを主旨とした企画となっている。さらに、平成20年度からは講習会のノウハウを共有していくため、同じ理系の北青葉山分館と共同で企画運営を行うことになった。平成20年度の実施状況は両館合わせて、学生向けに5種類のメニュー(①蔵書検索とMyLibraryの活用、②電子ジャーナルとデータベース紹介+Google、③日本語論文の探し方~CiNiiとJDreamII、④外国語論文の探し方~Web of ScienceとScopus、⑤レポート・論文作成のテクニック)で66回実施し、164人の参加があった。また、教職員・秘書向けには19回実施し、30人の参加があった。他方、利用者の実情を知らないという反省から、平成19年度より教員に対しインタビューを行い、教員の講習会に関する意識やニーズ、文献探索の実情などの調査を開始した。平成20年度にはインタビューの対象範囲を学生にまで拡大した。広報についても可能な事は全て試してみるという方針で積極的に行っている。インタビューの質問項目としてはもちろんのこと、平成20年の秋には、大学生協前にテント設営し、工学分館の活動や、講習会のPRなどの広報を行った。その甲斐があつてか、それ以降の講習会への参加者は前年の同時期に比べ増加した。平成21年度の情報検索講習会では、上記のメニューに、⑥資料としての特許と規格、⑦博士論文の探し方、を加える予定で現在準備を進めているところである。また、知的財産部との共催で、学生向けの特許情報検索講習会も別途行う予定である。

# 東北大学附属図書館農学分館

## (分館の概要)

東北大学附属図書館農学分館は、仙台市の雨宮地区キャンパスにある農学系専門図書館で、農学・農業経営・バイオテクノロジーなどの資料を収集しています。

農学分館の歴史は、本学（当時は東北帝国大学）に農学部が設置された昭和22年開設の「農学部図書室」から始まり、昭和49年に「農学部分館」になった後、昭和53年に「農学分館」と改称されました。現在の建物になったのは、改称の翌年の昭和54年4月です。（下表の沿革参照）

農学分館は2階建ての建物で、総面積はおよそ1280㎡、閲覧席数105席、およそ11万冊の図書収容能力を持っています。また、蔵書数はおよそ133,000冊、所蔵する雑誌種は4,800種余りです（平成19年度末現在）。館内には1係6名が職務に従事し、平日の午後5時から午後8時までは、アルバイト3名が、カウンター要員として交代で勤務しています。

午後8時以降および土・日曜日等は無人開館を実施しているため、本学の教職員や雨宮地区在籍の学生・大学院生は、午前0時まで利用することができます。

平成19年度には、学内外からおよそ32,000人の入館者と5,500冊の貸出（学内）がありました。



## 東北大学附属図書館農学分館沿革

昭和22年 4月	東北帝国大学農学部設置
昭和22年 9月	農学部図書室開設
昭和24年	新制東北大学農学部となる。
昭和25年 5月	農学部が片平地区より雨宮地区移転開始
昭和27年	農学部図書室も雨宮地区移転
昭和34年 12月	農学部図書室から農学部図書掛になる。
昭和49年 4月	農学部図書掛から農学部分館になる。
昭和53年 4月	農学部分館から農学分館に改組。
昭和54年 4月	現在の農学分館の建物が竣工。

## 今後の農学分館

現在、農学研究科・農学部は、青葉山新キャンパスへの移転の準備を進めています。新キャンパスには、農学分館や同じく移転する研究所図書室の後継となる新しい図書館も設置される計画で、その準備が附属図書館のもとに進められています。

# 宮城教育大学附属図書館

## (大学の概要)

宮城教育大学は、昭和40年に設立され、東北地区唯一の教育単科大学として、教員養成や教育実践研究に成果をあげてきました。平成20年度には、新たに教職大学院を設置し、多様化し高度化する教育現場でのニーズにこたえようとしております。県内各教育委員会と連携し、さまざまな事業や研修を行うなど、地域の教育現場との交流も盛んです。

## 1. 蔵書数とその特徴

図書約33万冊、雑誌約5700タイトルを所蔵しています。また、電子ジャーナルも約6000タイトル契約しています。

本学図書館は、旧宮城師範学校の蔵書が母体となっているため、歴史的に古い貴重な資料を所蔵しています。和漢書古典約4千点1万冊には、仙台藩最初の公共図書館として有名な青柳館(せいりゅうかん)文庫の蔵書が含まれます。これらは、温湿度を一定に保たれた貴重資料室で、大切に保管されております。

教育大学らしい特徴としては、次の3点があげられます。

### (1) 網羅的な教科書の収集

小中高校等で使われた教科書を精力的に収集しています。現在使われているものはもちろん、古くは明治時代の教科書もあります。

### (2) 教育実践資料の収集

教育実践の先達として名高い元学長林竹二の蔵書を保管した「林竹二文庫」など、教育実践の分野における貴重な資料があります。

### (3) 児童書や絵本の収集

幼児教育にとって児童書は重要な資料です。当館では1万冊の児童書があります。

## 2. これまでの取り組み

### (1) 教育実習への配慮

長期休暇中は土日閉館が原則ですが、夏季休暇中に教育実習が実施される場合は、土日も開館し、教育実習生に便宜をはかっています。

### (2) 企画展の実施

平成17年度より、教員と図書館員との相互協力のもとに、「教科書企画展」を行っています。

17年度は「国語・修身」、18年度は「算術・算数・数学」、19年度は「理科」を実施しました。

20年度は改修工事のため、実施できませんでしたが、21年度は「社会」の教科書企画展を行います。

また、図書館員による常設展も行っており、これまでに「仙台童蒙(こども)新聞」「こどもの歌」「戦前～現代の家庭科教科書」などのテーマを取り上げています。

## 3. 最近の動向・課題

### (1) 耐震改修工事の完了

平成20年度に耐震改修工事が実施され、外装・内装ともに新しく生まれ変わりました。

パソコン24台を有するマルチメディア室、研究個室としてのゲストルームが新設されました。また、学内の教育実践資料を集めた教育実践資料室が近くオープンする予定です。

ただし、この改修工事では増床が実現せず、書架狭隘化の課題が残ったままとなっています。

### (2) リテラシー教育

平成20年度より、学部1年生を対象にした授業「情報機器の操作」で、図書館がガイダンスを行えるようになりました。このガイダンスは、21年度以降も続く予定です。

### (3) マイライブラリの運用開始

平成21年2月に、図書館システムを一新し、「マイライブラリ」のサービスを開始し、なお一層の利用者サービスの向上を図ります。

### (4) 開館時間の延長

平成21年4月より、21:30までだった開館時間が、22:00までに延長されます。

# 秋田大学附属図書館 秋田大学附属図書館医学部分館

## (大学の概要)

秋田大学は、昭和24年5月の国立学校設置法の公布により、秋田鉱山専門学校（明治43年創立）、秋田師範学校（昭和18年創立）、秋田青年師範学校（昭和19年創立）を包括し、学芸学部、鉱山学部の2学部からなる新制大学として発足し、その年の8月には秋田鉱山専門学校、秋田師範学校、秋田青年師範学校の施設並びに図書を引き継ぎ、附属図書館本館を鉱山学部のある手形地区に、分館を学芸学部のある保戸野地区に、そして、分室を学芸学部教育部のある東根小屋地区に設置した。その後、昭和47年には手形地区に附属図書館新館が、本道地区には医学部分館が設置された。

## 特色ある蔵書

1) 北方教育関係資料：北方教育とは、狭義には成田忠久が社主であった北方教育社より、1930年から1937年にかけて刊行された綴方研究雑誌『北方教育』を指すが、最広義には、東北全円の生活綴方の北方性教育運動と言える。端的には、秋田で生まれた生活綴方教育運動と言える。図書館で所蔵の資料数は約2,200点程で、名誉教授の戸田金一先生が研究のためにご自身で収集された、大変貴重な資料であり、秋田大学でしか所蔵していない資料が多いため、全国の研究者が図書館を訪問し利用している。

2) 教育課程文庫：昭和22(1947)年、米国から寄贈された米国の教科書・教育専門書に、文部省がさらに国定および民間編集の教科書などを加えて「教育課程文庫」とし、全国20ヵ所に設置した。秋田大学附属図書館での所蔵リストは<http://www.lib.akita-u.ac.jp/kkbunko.htm>にて公開している。

上記、以外では「シェイクスピアコレクション」「ガリレオコレクション」等を所蔵している。

## 秋田大学学術情報リポジトリ

オープンアクセス及び大学からの研究成果の発信源としての秋田大学学術情報リポジトリ(AIR)は2008年3月の正式公開から1年が過ぎ、紀要等の学内刊行物を中心に2009年3月現在、約1,200件の論文等の登録が終了した。アクセス数は月平均5,000件程度である。

## 開館時間等

平日：8：30～21：00

土曜・日曜・祝日：10：00～17：00

## 長期休業期間

平日：8：30～17：00

土曜・日曜・祝日：休館

## 地域貢献

地域に開かれた図書館として、学外の方々にも気軽に利用してもらえる図書館をめざしています。図書館の閲覧サービスや館外貸出を行っている。

## トピックス

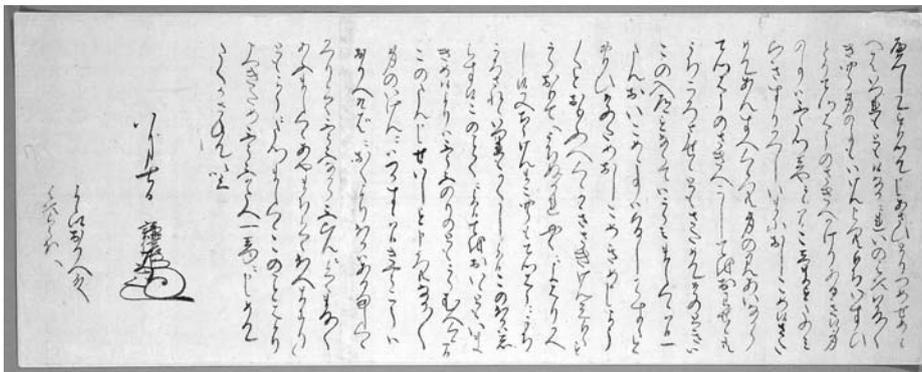
この3月に閲覧机・椅子の1部(70席)を更新しました。照明は環境にやさしいLEDとした。



# 山形大学附属図書館中央図書館

～キラリと光る存在感のある大学へ～

- ・(大学の概要と図書館の特性)
- ・明治11年山形県師範学校が創設で、昭和24年山形大学、平成16年国立大学法人化となり、現在に至る。平成20年度現在6学部21学科、大学院は5研究科を擁している。平成21年度からはさらに2研究科(うち1つは教職大学院)が新設される。  
図書館は、4つのキャンパス(小白川、飯田、米沢、鶴岡)にそれぞれ配置されている。平成21年度には組織見直しを行い、中央図書館・3分館から4キャンパス図書館となり、独自色を強めた運営を展開していく方針が定められている。
- ・学術資料の特徴：多数の貴重図書を保存しており、中でも鎌倉時代より連綿と続く新潟の中条氏に伝わる古文書である「中条家文書」は特筆に値し、国指定重要文化財の指定を受けている。IT化した「紅花の歴史文化館」は、本県の特産品である紅花の関連情報をデータベース化し、まとめたもので、本協議会より平成19年度学術奨励賞を受賞した。
- ・藤沢ライブラリー：映画「たそがれ清兵衛」で一躍人気となった藤沢周平(本学卒業生)の作品と関連文献、DVD等を収集し、4館それぞれに藤沢ライブラリーを設置している。



上杉謙信書状(〔天正元年〕8月7日付附属図書館所蔵「中条家文書」所収。  
謙信が加賀一向宗の立て籠もる朝日山城(金沢市)を攻めたときに家臣の夫婦に宛てたもので、初陣の子供を負傷させては両親にすまないと思い、参戦させなかったことを理解してほしい旨つつづっている。謙信の心遣いが読み取れる。



文殊菩薩騎獅像(永祿六年に最上義光の母とされる永浦尼(えいほに)が作成し、宝光院に寄進したものの。)  
この年代で製作者がわかる刺繍はまれで、美術的にも貴重なものである。



- ・デリバリー・サービス：分散キャンパスの不利な状況を解消するため、宅配便を利用したデリバリー・サービスを実施している。全館横断の貸出業務ネットワークを構築し、学生、教職員、市民が全館の図書の貸借手続きを、最寄りの図書館で出来るようにしている。
- ・地域へのサービス：各キャンパスの図書館は地域への開放を積極的に進めており、一般市民の利用が4館合計で20,000名を超えた。この点を国立大学法人評価委員会より、特色ある取組みとして評価された。
- ・県内他機関との連携：大学コンソーシアムやまがた(県内11の高等教育機関と山形県で構成する組織)の学術情報部会で、地域リポジトリの構築・運営を行っており、その中心的役割を山形大学図書館が担っている。  
また、ゆとり都OPAC(山形県立・山形市立の両図書館と県内大学・短大の計8機関の横断検索が可能)による図書情報の相互交換を行っている。

# 山形大学附属図書館医学部分館

## (学部の概要)

山形大学医学部は昭和48年(1973)に設置されました。一県一医学部の政策により設置された山形大学の中では最も新しい学部です。医学部のある飯田キャンパスでは、学部学生700余名、大学院学生200余名が学んでいます。最近では医学部の地域特性を生かした研究がグローバルCOEプログラムに採択されるなど、独自の先進的な研究教育がおこなわれており、山形県の医療を担う存在となっています。全国に先駆けて24時間保育の保育所を開設し、女性が働きやすい環境を整え、附属病院内にコンビニエンスストアやコーヒーショップを開店させるなど、学生や教職員だけではなく患者さんのアメニティ向上にも取り組んでいます。

## (今となっては誰も知らない医学部分館創設の頃)

昭和48年(1973)医学部の設置が決まった頃、飯田は文字通り田圃でした。学年進行に伴い次々に建物が建築されました。一番最初に基礎棟が竣工し、小白川キャンパスの中央図書館に仮住まいだった蔵書も空き研究室を借りて移動しました。田圃だった飯田キャンパスは工事車両が出入りすることもあって、通路は少しの雨でもどろどろでキャンパスの入口で長靴に履き替えたりしました。昭和50年(1975)学生実習講義棟が完成し講義室の一部を閲覧室にして図書館業務を開始しました。その後昭和53年(1978)に医学部分館の建物が竣工するまで毎年のように引越をしていました。その最後の引越の前日宮城県沖地震がおき、引越準備で図書館脇に止まっていた運送会社のトラックも空の書架もがたがた揺れていました。開設当初は医学図書館協会に加盟するために、そちらこちらから医学書と医学雑誌の寄贈や管理換えの受入をしました。小さな図書館ですから、頂いたものの配架はできずにそのまま箱詰め積み上げられたままになってしまったものも少なからずあります。潤沢にあるわけではない予算を有効に使うということで開設当初から、学術雑誌は重複購入を避け原則としてすべて図書館に配架するという集中管理方式を採用しました。

## (その後)

昭和58年(1983)に医学図書館協会に加盟。昭和60年(1985)には早くも書架の狭隘化が問題となり集密書架設置。昭和63年(1988)から業務の電算化が始まり、OPACの公開やホームページの開設へと続きます。さらに文献検索データベースを導入し、電子ジャーナルの提供も始まりました。平成5年(1993)から教職員・大学院学生を対象に電子錠による夜間の無人開館を開始しました。有人の時間外開館も徐々に拡大しています。平成8年度(1996)から学内経費より学生用図書購入費を措置していただき、シラバス掲載図書を中心に新刊図書を購入しています。

## (課題)

狭隘化解消が最大の課題です。新着雑誌の配架にも苦慮しています。閲覧机も隙間なく並べられていて、見るからに窮屈です。日常業務に追われ、利用者のニーズの把握も、利用案内等の広報や利用ガイダンスなども充分にはできていません。職員の知識・技術の習得も課題です。

# 山形大学附属図書館工学部分館

## 1. 沿革(工学部分館の概要)

昭和 24 年 5 月山形大学の設置と同時に、旧米沢工業専門学校図書館から山形大学附属図書館工学部分館として新機構のもとに発足した。

その後昭和 29 年 4 月に夜間課程の山形大学工業短期大学部が設置され、同大学部図書館を併設した。昭和 39 年 4 月 25 日工学部創立 50 周年記念図書館として竣工。昭和 42 年 3 月 31 日演習室兼教室利用のため図書館に 3 階部分増築。昭和 62 年 2 月 25 日情報処理センター米沢分室を図書館 2 階に併設するため、増改築が竣工。平成 11 年 4 月には第 3 次補正予算による国立学校施設整備事業として工学部分館の増築および改修に着手。翌平成 12 年 1 月に竣工し、現在に至っている。

## 2. 特色(現状と課題)

- ・工学部分館は、工学部の学生および教職員のための専門図書館であるので工学関係の図書がかなり充実している。平成 19 年度の蔵書数 170,393 冊中、工学系は 65,401 冊にのぼる。平成 10 年度には学外者の利用を開始し、16 年度には貸出を開始したことにより、地域住民の利用が急増した。そのため、専門図書だけでなく話題の新刊本や地元に関連した“藤沢周平コーナーの新設”や“ミニ直江兼続展”等により、図書館を身近な場所にするべく奮闘しているところである。しかも、平成 13 年学外者の利用を未成年者にまで対象を拡大したところ高校生が学習の場を求めて多数来館するようになった。その一方で、在学中の山大学生からは、高校生が多すぎる等の苦情が殺到したため、その打開策として 1 階の一部を山大学生優先席としたが、効果がなかった。そこで、従来グループ学習室として使用していた場所に個人用の照明付キャレールデスクを 40 台新設し、新年度より山大学生優先席として利用する予定である。今後は、米沢市や高校側との協力体制が重要になっていくのではないかと考えている。
- ・図書館 3 階にあるニューメディア室 (2) を“放送大学山形学習センターコーナー”とし、放送大学用教材を配置、かつその場でも視聴できるビデオデッキや受信装置を設置し、だれでも利用が可能としている。特に山形市内まで行かなければ利用できなかった教材が利用できるとあって、近隣地区の地元の放送大学受講生の利用が定着している。さらに、放送大学学生および山形大学学生・教職員には館外貸出も可能となっている。
- ・同様に図書館 3 階のマルチメディア室は、パソコン 30 台とともに増改築の際設置された。当時としてはかなり画期的で花形的存在だったものの情報化がすすみ、パソコンの普及や情報基盤センターの充実などで最近はほとんど利用されることがなくなり、今後はいかにしてこの部屋を活用していくかが課題となっている。
- ・図書館玄関を入ってすぐの場所に、自動販売機があり、飲食可能なフレッシュコーナーがある。現在では珍しくはないが、設置当時はかなり人気のスポットだった。ただし、そこでの飲食時のおいやおしゃべりなどが図書館の中まで充満し、不快に感じていた利用者も多かったと思うが、このたび図書館ゲート前に自動ドアを設置したことにより、それらの不満は解消された。
- ・山形大学の図書館は、事務組織の改編により今後は、各学部直轄の図書館となる。組織が変わったとしてもこれまで同様のサービスを提供することには変わりはないが、地元にしっかり根をはり、連携をとっていく必要があると思う。

# 山形大学附属図書館農学部分館

## (学部の概要)

本学部の前身である山形県立農林専門学校は戦後間もない昭和 22 年 4 月に庄内穀倉の中心都市鶴岡に産声をあげて誕生した。そして、昭和 24 年 5 月に現在の山形大学農学部が農学科と林学科の 2 学科だけで発足したが、後に 3 学科が増設されて 5 学科となり、昭和 45 年には大学院農学研究科が設置された。その後、平成 2 年 4 月には本学等を参加校として岩手大学に「岩手大学大学院連合農学研究科（博士課程）」が設置された。また、平成 3 年 4 月には 5 学科が 2 学科に改組され、さらに平成 10 年 4 月には 2 学科が 3 学科に改組されて、現在に至っている。なお、平成 16 年 4 月には国立大学法人山形大学農学部として生まれ変わり、平成 22 年 4 月からは現在の 3 学科を 1 学科 6 コース制に改組する予定となっている。

## (蔵書数)

本学部の図書館は、県立農林専門学校の蔵書を引き継ぎ、その後も自然科学、環境、農業及び林業分野の専門書を着実に整備してきた。ちなみに、昭和 56 年当時の蔵書数をみると、和漢書 40,700 冊、洋書 8,760 冊、計 49,460 冊であり、大学法人化前の平成 15 年度に約 2,000 冊弱を除籍し、現在では和漢書 75,300 冊、洋書 17,200 冊、計 92,500 冊となったが、その蔵書構成はほとんど変わっていない。なお、平成 8 年度から学内措置予算により学生用図書を購入してきており、その冊数は 3,000 冊を超えている。

## (最近の動き)

- ①無線 LAN の敷設：本学部の館内には平成 19 年度に無線ランが敷設され、利用者がインターネットを利用できる環境が整っている。
- ②山形大学機関リポジトリによる論文等の公開：平成 18 年度から公開され、現在では本学農学編紀要論文 28 篇及び本学部教員の博士論文 50 篇を公開している。
- ③資料の充実：学内措置学生用図書の外、平成 18 年度から留学生用図書及び CD-ROM を購入している。また、平成 19 年度には藤沢周平著書を整備している。
- ④留学生用パソコンの整備：平成 20 年度に Office English Ver. を入れた Windows Vista English Ver. を館内に設置している。
- ⑤開館時間・開館日の拡大：平成 20 年 1 月から開館時間を 1 時間延長して 21 時 15 分までとしており、更に平成 20 年度から学生の要望を受けて夏季休業及び春季休業期間の一部も通常開館している。
- ⑥シラバス掲載参考図書等の図書館所蔵状況一覧：平成 18 年度からシラバスに掲載されている参考図書やテキストについての悉皆購入に努めており、購入した図書はホームページにより授業科目から所蔵状況が瞬時に分かるようになっている。
- ⑦図書館デリバリーサービス開始：平成 19 年 11 月から 4 キャンパス間で相互に図書を貸借する図書館デリバリーサービスを開始し、学生・教職員・学外者による一定の利用がみられる。

## (利用状況)

本学部の利用対象者は、学外者も含め 1,400 人以上に上り、年齢層も幅広くなったため、以前に比べてよりきめ細かな利用者への配慮が求められるようになってきている。また、学外者及び教養教育課程から進学した学生に対して、館内ツアーの実施等利用教育にも取り組んできている。その結果、平成 19 年度では開館日数 315 日、年間入館者数約 4 万 7 千人となっている。

## (課題)

やはり狭隘問題が大きいですが、この問題については少ない職員で厳しい面があるが、現在ある配架スペースを少しでも有効に活用するため、重複図書等の処分を考えている。

# 福島大学附属図書館

## (図書館の概要)

本学は昭和24年5月福島師範学校、福島青年師範学校及び福島経済専門学校を包括して、学芸学部及び経済学部の2学部からなる福島大学として発足し、両学部には図書館が設置された。昭和26年12月本館制度を導入し、本館を経済学部に置き、両学部に分館を置いた。その後、昭和41年国立学校設置法の改正により、学芸学部は教育学部となり、それに伴い学芸学部分館は教育学部分館となった。

昭和51年4月分館制度を廃止して、統一図書館として発足した。さらに、本学の長年にわたる懸案事項であった学舎統合が実現し、昭和56年2月金谷川キャンパスに図書館棟が竣工して、同年4月より業務を開始した。2学部時代から人文・社会科学系の図書を中心として収集してきたが、平成16年10月共生システム理工学類の設置により自然科学系図書の充実にも力を入れている。

## (最近の動き)

### ①附属図書館の理念と目標

平成18年度に図書館運営の基本方針となる「附属図書館の理念・目標」を策定した。この理念・目標に基づき、本館が収集する資料の整備・充実を図り、利用環境の改善を進めている。

### ②福島県内図書館横断検索

福島県内にある大学図書館11館、高専図書館及び公共図書館3館の蔵書が一括して検索できる横断検索を平成19年度に導入した。これにより、本学学生や教職員のみならず、一般市民が生涯学習活動に必要とする資料検索の利便性は大幅に向上した。

### ③福島大学学術機関リポジトリ「FUKURO」の公開

本学の研究成果を広く国内外に公開するため、平成18年度より機関リポジトリの構築を開始し、平成20年3月本公開を行った。現在は本学刊行の紀要掲載論文を創刊号まで遡って登録を進めており、平成21年3月時点で約2,000件の登録となっている。

### ④福島大学附属図書館と福島県立図書館との図書館連携

本学の学生や教職員の利便性を高めるとともに、学術専門書を必要とする一般市民の生涯学習活動を支援することを目的に図書館連携を開始した。両館合わせて160万冊の蔵書が、それぞれの窓口で貸出・返却ができる。図書はそれぞれが運行している配送車等によって、週1回程度の配送を行っている。将来は、福島市内の大学図書館や市立図書館を含めた図書館連携も視野に入れている。

## (図書館概要)

蔵書数：824千冊  
所蔵雑誌数：13千種  
利用対象者：5,100人  
開館状況：322日  
入館者数：283千人  
受入冊数：9千冊  
(平成19年度実績)



# 青森公立大学図書館

## (大学の概要)

本学は、平成5年4月「県都青森市に国公立大学を」との長年の市民の願いのもと、「経営経済学部経営経済学科」を擁する単科大学として開学しました。

その後、平成9年度大学院（修士課程）が開設。平成18年度には「経営学科」、「経済学科」、「地域みらい学科」の3学科に改編、平成19年度には大学院を区分制博士課程へと改編しました。

本学は、「経営学」「会計学」「地域研究」の専門分野では、北東北から道南地域にかけてワンベストでオンリーワンの大学になれるように、更なる教育改革に邁進いたします。また、平成21年度より「公立大学法人」となることから、さらなる教育サービスが提供できるよう今後も努めて参りたい。

## (蔵書数)

本学図書館の蔵書数は、平成20年3月末現在149,101冊、内和書104,152冊洋書41,949冊となっております。雑誌は和雑誌1,039種、洋雑誌725種、となっており、今後は、データベースや電子ジャーナル等の収集にも努めて参ります。

## (利用状況等)

開館時間は平日、土曜日、さらに平成16年度より試験期間中の日・祝日も開館。開館時間はいずれも9時から21時30分までとなっております。

(ただし、夏休み、春休み等休業期間は9時から17時まで)

閲覧席は200余席があり、学生が勉学に必要な図書や雑誌等を書架から自由に取り出して閲覧できるように、すべて開架式となっております。

配架資料は学習ニーズに対応するよう、「参考図書」・「教養図書」・「専門図書」と3分野に分けております。視聴覚用ブースも20席ほど用意しております。

平成7年度より一般市民にも開放しており地域に根ざした生涯学習拠点として広く活用できる様さらにサービスの充実に努めて参りたい。

# 青森県立保健大学附属図書館

## (大学の概要)

本学は平成 11 年 4 月に、「豊かな人間性と高度な専門性を備えたヒューマンケアができる人材の育成」を教育理念に掲げ、1 学部（健康科学部）3 学科（看護学科、理学療法学科、社会福祉学科）の大学として開学した。その後、平成 15 年 4 月に大学院、平成 20 年 4 月栄養学科を開設し、平成 21 年 4 月で開学 10 周年を迎える。

## (蔵書数)

本学の図書館の蔵書は、開学時約 20,000 冊でスタートし、3 年間の初度整備完了時（平成 12 年度末）には、和書 37,397 冊、洋書 18,452 冊、合計 55,849 冊となった。平成 13 年度以降は専門分野の新刊図書を中心に収書しており、平成 20 年 3 月末現在の蔵書数は 90,265 冊となっている。

## (利用状況)

平成 20 年度 4 月より開館時間を延長し、平日 8 時 45 分から 21 時まで、土曜日 8 時 45 分から 17 時まで開館している。また、大学院生および教職員に対しては閉館時間から 24 時までの夜間無人開館を実施している。平成 19 年度の開館日数は 272 日で、入館者数は約 9 万人となっており、学外者への公開も行っている。

本学の学部学生 1 人当たりの貸出冊数は平成 19 年度 36.3 冊と多く、特に専門分野の図書は非常によく利用されている。館外貸出は、本学学生および教職員には貸出期間 2 週間、貸出冊数制限無しで館外貸出を実施し、卒業生および学外者への館外貸出は、貸出期間 2 週間、貸出冊数 3 冊で行っている。

年 度	開館日数(日)	入館者数(人)	学部学生の貸出冊数(冊)
11 年度	239	38,649	3,341
12 年度	270	64,116	11,800
13 年度	271	80,915	17,404
14 年度	274	86,502	20,647
15 年度	276	87,531	23,651
16 年度	273	92,511	24,711
17 年度	274	91,916	24,930
18 年度	270	89,814	23,569
19 年度	272	90,823	25,408

## (データベース・電子ジャーナルの提供及びガイダンスの実施)

現在、提供しているデータベース・電子ジャーナルは、医中誌 Web、CiNii、聞蔵Ⅱビジュアル、CINAHL、ProQuest Health and Medical Complete である。各種データベースの利用方法については、申込に応じて随時ガイダンスを行っている。特に、看護学科 3 年生を対象として医中誌 Web の利用方法と文献複写申込方法についてのガイダンスを毎年 2 月に実施している。

# 岩手県立大学メディアセンター

## (大学の概要)

本学は平成10年(1998)4月、「自然、科学、人間が調和した新しい時代を創造することを願い、人間性豊かな社会の形成に寄与する、深い知性と豊かな感性を備え、高度な専門性を身につけた自律的な人間を育成する大学を目指します」という建学の理念のもと、看護学部・社会福祉学部・ソフトウェア情報学部・総合政策学部の4学部で開学し、同時に歴史ある県立盛岡短期大学、県立宮古短期大学を短期大学部として併設しました。

## (蔵書)

本学の図書館としての機能を持つメディアセンターは、ドーム型天井の明るく開放的な空間に、現在では和書約174,000冊、洋書約56,000冊、計約230,000冊を備え、なかでも特色的な蔵書として、ナイチンゲールの自筆書簡・著作・研究書22点があります。これらは、ナイチンゲールの誕生日(5月12日)にちなみ制定された看護の日にあわせて一般に公開しています。



岩手県立大学メディアセンター



## (最近の動き)

本学は平成20年(2008)4月に開学10周年を迎えました。メディアセンターでは、次なる10年のはじまりとして、メディアセンター長と学生との意見交換会を実施し、学生の意見をメディアセンターの運営に反映させていく新たな取り組みを開始しました。

## (課題)

今後の課題のひとつとして、外国雑誌の価格高騰と電子化への対応が挙げられます。図書館の予算に占める雑誌購入費の割合が60%を超えるなか、教育・研究活動に有用な学術雑誌を引き続き提供していくため、タイトル・購入方法の調整や予算の確保に向けた調整などに努める必要があります。

# 宮城大学総合情報センター

## (大学の概要)

宮城大学は、平成9年(1997年)4月に県内初の4年制看護学部と全国で最初に「事業構想」の名を冠せた学部名をもつ事業構想学部をもって創設された。平成17年(2005年)4月には、旧宮城県農業短期大学を拡大改組した食産業学部を設置した。平成21年(2009年)4月には法人化され、公立大学法人宮城大学として新たなスタートを切る。

本学では「ホスピタリティとアメニティ」「高度な実学による地域貢献」「地域に根ざし世界に開かれた大学」という理念を掲げ、一層の飛躍に努めている。

## (蔵書数)

看護学部と事業構想学部を有する大和キャンパスと食産業学部を有する太白キャンパスに1つずつ図書館があり、両キャンパスを合わせた蔵書数は約130,000冊(2009年3月)である。教員などから積極的に寄贈を募り蔵書数の増加を目指している。

## (最近の動き)

### ①学外利用の拡大

地域に根ざした大学として、当初より学外者への利用開放を実施していたが、平成19年2月から館外貸出を開始した。特に大和キャンパスでは県内の看護関係者からの利用が多い。

### ②図書館利用アンケートの実施

平成20年度には学生へのアンケートを実施し、その結果分析を事業構想学部の研究チームに依頼。学生の目線で見たい利用しやすい図書館案の提案を受け、今後の業務改善の参考とした。

## (今後の課題、目標)

開学して12年になるが、十分な蔵書数とはいえない。今後は学生1人あたりの蔵書冊数を増やすとともに、専門図書の充実、図書の電子化、館内環境の整備等を進めることにより、利用者数、貸出数の増加を図ってきたい。



大和キャンパス図書館



太白キャンパス図書館

# 秋田県立大学図書・情報センター

## (大学の概要)

本学は、システム科学技術学部と生物資源科学部という2つの学部を持ち平成11年4月に開学した。キャンパスは秋田・本荘・大潟の3つに分かれており、各キャンパスに図書・情報センターが存在する。現在約1,600名の学部生と約150名の院生が在籍している。

## 【蔵書数および蔵書の特徴】(平成20年3月31日現在)

秋田キャンパス	約5万6千冊	自然科学分野の専門書
本荘キャンパス	約6万6千冊	科学技術分野の専門書
大潟キャンパス	約4万6千冊	農業経済分野の専門書

## 【利用者サービス拡大の変遷】

### 1. 開館時間の延長および無人開館の実施

秋田・本荘キャンパスの図書・情報センターは、平成11年4月に開館時間9:00～18:00(休業期9:00～17:00)でスタートし、翌年には19:00まで開館を延長した。平成14年1月からは無人開館システムを導入することにより、夜間は22:00まで延長、さらに土日祝日も9:00～19:00(休業期9:00～17:00)まで開館することとなった。平成19年6月には開館時間を8:30と早めるなど、開学から10年間、徐々に開館時間の延長を行ってきた。また、毎月末には資料整理日として閉館していたが、平成14年4月からは隔月にするにより、開館日数も増やしてきた。

### 2. 学外利用者

図書・情報センターは、開学時より一般県民に開放している。平成14年度以降は推薦入学合格者に対して図書館利用者証を発行し、入学前から図書の貸出を行っている。平成19年から始まった生涯学生制度や企業との連携協力協定により、図書館利用者証の発行件数は年々増加している。

### 3. 他大学図書館との相互協力

開学初年度より国立情報学研究所が運営する目録所在情報サービスに加盟し、他大学と図書館間相互貸借を行っている。文献複写に関しては当初他大学へ依頼する一方であったが、平成18年7月より他大学からの貸出および複写依頼の受付を開始した。受付件数は年々増加傾向にある。

### 4. 秋田県立図書館と協定締結

地域一体となった資料の充実とサービスの拡大を目指し、平成20年12月に秋田県立図書館と相互協力に関する協定を締結した。本学図書・情報センターは自然科学、技術工学、農学に関する分野に特化した蔵書を有することが特徴として挙げられ、一方県立図書館は文学を中心に幅広い蔵書数を有することと郷土資料の充実が特徴である。協定によって互いの蔵書構成が補われ、両図書館の利用者がそれぞれの蔵書を相互に利用できることとなった。

# 秋田公立美術工芸短期大学附属図書館

## (大学の概要)

本学は、平成7年(1995年)に秋田市を設置主体とし、周辺市町村(当時9町1村)からの運営基金支援を得て設立された。地域産業に根ざし美術工芸技術者を40年間にわたり養成してきた「秋田市立美術工芸専門学校」の専門課程を発展的に改組し、新たに「秋田公立美術工芸短期大学」として設置した。

本学は、美術・工芸・デザイン分野に特化した短期大学であり、工芸美術・産業デザインの2学科及び専攻科を設置している。各学科は、それぞれの設置目的、教育目標、手法、使用素材の種類などにより、さらに専門のコース(工芸美術学科)及び分野(産業デザイン学科)に細分化している。

工芸美術学科は、木材工芸コース・漆工芸コース・金属工芸コース・鋳金、金属工芸コース・彫金、染織コース・染色、染織コース・織、窯芸コース・陶芸、窯芸コース・ガラス、絵画コースの9コースを開設している。

産業デザイン学科は、グラフィックデザイン、パッケージデザイン、映像デザイン、ウェブデザイン、平面構成、イラストレーション、プロダクトデザイン、建築・インテリアデザイン、建築史・意匠、デザイン計画、公共デザインの11専門分野を開設している。

専攻科は、工芸美術専攻と産業デザイン専攻の2専攻を開設して、各領域における、高度な専門の知識・技術の教育を行っている。両専攻の開設分野は、学科と同様である。

## (蔵書数)

図書館の蔵書数は平成25年度までに4万冊を目指しており、一般図書に関しては本学に隣接する市立新屋図書館との相互貸借が可能であることから、本学としてはより美術分野に特化している。

平成19年度末の蔵書冊数は35,007冊(和書28,069冊、洋書6,938冊)平成19年度受入図書冊数は1,680冊、同年間受入雑誌種数92種、視聴覚資料は1,047タイトル(ビデオ681、LD118、DVD199、CD46、カセット3)である。

## (利用状況)

平成19年度の図書館の利用状況は、入館者48,504人、(学外者利用者数165人)貸出冊数は8,709冊、視聴覚資料利用件数は252件である。

## (特色)

本学が美術に特化した単科大学ということで、美術全般にわたる収蔵を行っているが、その中でも特にポップアップ絵本(118冊)と近代デザイン椅子(28脚)のコレクションがある。近代デザイン椅子については閲覧室に設置し、常時使用可能な展示スタイルとしている。また季節ごとにテーマを設定した本の展示を行い、一定の統一された本のコーナーを設け、新たな発見や発想の機会を提供している。

# 国際教養大学図書館



## (大学の概要)

“世界に通ずる大学”を目指し、「授業はすべて英語」「少数精鋭の教育」「新入生は外国人留学生と共に1年間の寮生活」「在学中に全員1年間の海外留学」そして「24時間オープン図書館」などユニークな特徴を掲げ、2004年4月に日本初の公立大学法人として誕生した。2008年9月現在、日本人学生653名、アメリカ、台湾、韓国、イギリス、モンゴルなど世界20余りの国から100名ほどの留学生を迎え、小規模ながらも国際色豊かである。

## (24時間・365日開館)

開学以来、図書館の24時間・365日オープンを継続してきた。年間を通して24時間開館しており、カウンターは深夜まで職員が対応している。平成19年度の夜間利用一日平均(午前12時～午前8時)は118人であり、キャンパス居住率が6割を超える本学の学生にとって、必要不可欠な施設であることがうかがえる。

旧図書館の配架スペース不足を解消するため、図書館を移転新築し、2008年4月、国際教養大学キャンパスに「知のシンボル」となる図書館が完成した。周辺の緑豊かな自然環境と共存する木造2階建て、半円の段状空間「本のコロセウム」をテーマとしたユニークなデザインである。木造架構には全て秋田杉を使用し、伝統技術を生かした傘型の梁が秋田杉の美しさを際立たせている。1階、中2階、2階をつなぐエレベーターと、その間の階には昇降リフトを設置し、段差を克服したバリアフリーの設計となっている。図書の内容スペースは約13万冊分と旧図書館と比較して倍増し、閲覧席も学生2人に1席の割合の300席である。各利用者の学習活動の動機や目的、条件に対応するため、本に囲まれたライブラリーホールと窓側に閲覧席が並ぶ1階閲覧室、大テーブルや個人デスクなど、多様な学習環境が選択できる。座席の高さが異なる3色の椅子と温度や明るさの違う閲覧席を利用者自身の好みで選ぶことができることも魅力である。また、予約制で2名から利用可能な「グループ学習室」もゼミ活動や学生たちの自主的な学習に深夜までよく使われている。

## (洋書が全蔵書の7割)

図書は学術書が中心で、特に日本の歴史・文化に関するもの、言語・文学に関する洋書を豊富に所蔵している。約5万8千冊の図書のほか、約150種の雑誌や新聞、約2200タイトルの視聴覚資料などを揃えている。一般向けの和書は、大規模な蔵書量を誇る秋田県立図書館との相互協力協定により、国際教養大学にしながら、県立図書館の図書を借りることができる。本学からの依頼件数は、平成19年度の107件から、20年度は293件(2月末現在)と大きく伸びた。

## (学術情報リテラシー教育支援)

図書館の利用方法については、学生便覧に細かく明示した上で、入学時のオリエンテーションでも説明している。また、新入生に対しては「図書館リサーチ(図書館調査手法序論)」を授業科目の中に組み込み、図書館内での蔵書類の検索方法のほか、国内外の政府機関、政治・経済・社会団体、各種研究機関等のウェブサイトからの情報収集方法及びオンラインデータベースの利用方法などを指導している。その他、文献探索・データベース利用等、授業や研究内容に沿った内容で各種ワークショップを開催している。

## (地域貢献)

国際教養大学図書館は、地域の学術情報センターとしての役割を担うため、資料及び施設を広く一般の方に公開している。平日は10時から22時、土・日・祝日は18時まで利用でき、図書資料5冊を1ヶ月間貸出可能である。また、県立図書館との相互協力や企画展示の共同開催など、地域の方に対する利用サービス拡充の結果、一般登録者数は平成19年度の59名から、平成20年1月末には231名と飛躍的に伸びた。今後も魅力的な企画を通して、一般の方にも気軽に足を運んでいただける、開かれた図書館を目指している。

## (これからの課題)

図書館の入るA I U図書館棟は、図書館、I T教室、言語異文化学習センターで構成される複合学習施設であり、24時間の図書館開館に代表されるように利用者の利便性や効果的な利用環境を提供するため、図書・学術雑誌利用、I T教室の利用、言語学習のための視聴覚資料の利用と一体となって資料が有効活用されるよう工夫している。限られた人的資源を最大限に活かし、図書館の安全性を24時間保ちつつ、いかに利用者の具体的なニーズに対応したサービスの充実を図っていくかが、今後の課題である。

# 山形県立保健医療大学附属図書館

## (大学の概要)

本学は平成9年に山形県立保健医療短期大学として開設され、3年後の平成12年に短期大学を廃止して4年制大学の山形県立保健医療大学となった。看護学科、理学療法学科、作業療法学科の1学部3学科であったが、平成16年には大学院を開設した。また、平成21年4月からは公立大学法人となった。本学は「幅広い教養と豊かな人間性を備え、高度な知識と技術を持ち、専門職としての理念に基づき行動できる人材を育成するとともに、地域に開かれた大学として保健医療に関する教育・研究の成果を地域に還元し、県民の健康と福祉の向上に寄与すること」を基本理念としている。

## (蔵書数)

本学の図書館の蔵書は、大学開設に当たり、その前身である高等保健看護学院の蔵書を引き継ぎつつ、医療・看護関係の専門書を中心に整備された。開学当初より計画的に蔵書数を増加して行き、平成20年3月末では、和書約47,000冊、洋書約6,300冊、視聴覚資料約2,000冊となっている。また、蔵書の半数近くが医療・看護関係の図書となっている。

## (最近の動き)

本学のネットワーク上のパソコンから蔵書検索や文献検索データベースの利用、電子ジャーナルの閲覧ができるようになっており、データベースや電子ジャーナル等の利用も年々増加している。また、紀要を電子化し、本学ホームページ上で公開しており、今後は修士論文や学術論文等も公開していくことを検討している。

## (利用状況)

本学は平日夜9時まで開館し、平成19年からは土曜日も開館しており、医療・看護関連図書の所蔵が充実しているため、学生や教員だけではなく県内の医療関係者等の学外者にも利用されている。

## (課題)

資料購入費用が縮小され、所蔵スペースの狭隘化の問題もあるが、医療分野に限らず幅広い学問領域からの知識の習得が求められているため、医療分野以外の広範な学問領域から質的、量的にバランスのとれた整備を行っていくこととしている。

# 山形県立米沢女子短期大学附属図書館

## (大学の概要)

本学は昭和 27 年開学し、57 年目の女子短期大学で、今年度より公立大学法人として再スタートいたしました。

学科及び定員は、国語国文学科（定員 100 名）、英語英文学科（定員 50 名）、日本史学科（定員 50 名）、社会情報学科（定員 50 名）それに健康栄養学科（定員 40 名）で 1 学年 290 名です。

校舎も移転や改築を経て平成 6 年に現在の校舎となり、一部の校舎は耐震化補強を行うこととなっています。その中であって附属図書館は、昭和 59 年に現在の位置となり 26 年目であります。



附属図書館入口付近

## (附属図書館)

本館の概要は、延床面積 1,144 ㎡、閲覧席数 108 席、蔵書数 100,870 冊（和図書 94,155 冊、洋図書 6,715 冊）、学術雑誌 120 種ほどであります。



1階 検索パソコン、雑誌架コーナー



2階 書架

館内は中央に階段があり 1 階と 2 階に分かれており 1 階には学術雑誌、新聞、辞書類、書誌類等を配架し、検索用パソコン、受付カウンター、図書館事務室があります。2 階は、洋図書、和図書を配架しております。

近年、多くの寄贈図書受入で、書架整理を行い他大学からいただいた紀要等を保管倉庫に移動し、更に複本等を整理し館内の配架スペースを確保している状況です。

利用者のほとんどが本学の学生で、静かに閲覧できる図書館です。

# 会津大学情報センター附属図書館

## 1. 会津大学の概要

江戸時代の会津には、日新館という輝かしい伝統の藩校があり、会津は教育熱心な藩として知られていました。しかしながら、会津地域には4年制大学がなかったため、福島県は、この教育熱心な会津地域に、新たに県立の4年制大学を設置することとしました。大学の設置に当たっては、国際化、高度情報化社会が進展する中で、世界的視野を持ち、将来の情報科学を担い、発展させる人材の育成が最も重要であると考え、コンピュータ理工学部の特化した大学とし、平成5年4月に開学しました。

### (理念と特色)

「地域から世界へ」「to Advance Knowledge for Humanity(人類の平和と繁栄に貢献する発明・発見を行なうこと)」が建学の理念であり、「最高のコンピュータ利用環境」、「全世界から公募したトップレベルの教授陣」、「トップダウン教育」等を特色として、高度なIT専門家の育成を行なっています。

## 2. 附属図書館

「本館」と各講座・センターに設置された「図書ラウンジ」から構成される分散型図書館で、海外からの教員が半数を占めるため、洋書・洋雑誌が多いのが特徴です。蔵書数は、約12万6千冊（和書約5万5千冊、洋書約7万1千冊）、購入雑誌約330種（和雑誌約90種、洋雑誌約240種）となっています。（平成20年3月31日現在）

### (沿革)

- 平成5年4月 会津大学開学。研究棟1階に図書館が設けられる。
- 平成5年7月 「会津大学情報センター運営委員会規程」一部改正し、図書委員会を設置。
- 平成6年3月 図書館棟完成 地下1階、地上2階 総床面積 2,418.52 m<sup>2</sup>
  - 4月 図書館棟の供用始まる。洋書分類にLC分類法を採用。
  - 5月 図書館における本格的な利用者サービスを開始。
- 平成7年2月 図書ラウンジ運用説明会を実施。8日から本格的運用が開始。
  - 5月 学術情報センターとの接続開始。
- 平成9年9月 職員貸出条件の改正。(図書3冊以内1週間以内を図書10冊以内4週間以内)
- 平成15年1月 初代國井学長より約3,200冊の図書の寄贈を受ける。
- 平成17年11月 「学生の情報リテラシー能力の向上」という目的から図書館講習会を開始。
- 平成18年3月 シラバス掲載参考図書コーナーの設置。
- 平成18年4月 会津大学県立大学から公立大学法人へ移行  
学外者の貸出開始。(2冊以内、2週間以内)
- 平成19年1月 貸出サービスの拡大試行(雑誌貸出、卒論・修論・博論用図書特別貸出等)開始。
- 平成19年11月 会津学鳳校との高大連携に関する協定に基づき、特例として会津学鳳生に利用を認める。
- 平成20年4月 会津大学 新カリキュラムを導入。
- 平成20年6月 勉学に役立つ図書を展示するコーナーを設置。
- 平成20年7月 会津大学教職員、学生を対象としたパソコン専用コーナーの設置。
- 平成20年10月 パソコン専用コーナーに無線LANを敷設。
- 平成21年3月 長期休業中の土曜日の開館時間を15時まで延長(試行的に実施)。  
AVコーナーを更新・改善すると同時に、館内にくつろぎスペースを確保。

# 会津大学短期大学部附属図書館

## (大学の概要)

本学は、昭和 26 年（1951）に会津地方唯一の高等教育機関として開学した。平成 18 年（2006）4 月に公立大学法人となり、教育・研究に加えて地域貢献を積極的に実施している。現在、本学には、産業情報学科（経営情報コース、デザイン情報コース）、食物栄養学科及び社会福祉学科があり、産業、経営、デザイン、情報、環境、栄養、健康、食品、福祉及び保育などの暮らしに密着した幅広い特色ある専門領域群をもつ。

## (蔵書数)

本学の図書館には、各学科の教授内容に添った専門書を中心に、開学から 50 年余りに渡って収集された約 74,000 冊以上の図書や雑誌が揃えられている。

## (最近の動き)

### ①利用環境の整備

利便性の向上のため、図書館事務室を入口に移設するなど、利用環境の整備を実施した。移設に伴い、新設された木製カウンターや棚などは、本学教員が製作したものである。館内レイアウトの変更により、木や本が自然に持つ、やさしい温もりを感じさせる空間となり、利用者から好評を得ている。



### ②地域開放

平成 20 年度は、福島県内大学図書館連絡協議会企画事業として、会津若松市立会津図書館、会津大学情報センター（附属図書館）と本学の図書館が協力し、「再発見！図書館 in あいづ ～図書館さ、こらんしょ。」と題したイベントを実施した。これは、地域住民における各大学及び大学図書館への理解を深めてもらうことを目的とした社会貢献事業であり、本学の図書館は、これを契機に図書館利用についての積極的な広報を実施した。

## (利用状況)

本学の図書館は平日 8 時 30 分から 17 時（延長開館時は 19 時 30 分）まで利用でき、本学の学生、教職員は勿論、地域住民にも開放している。学外利用者の貸出冊数は、広報の効果もあり、平成 20 年度は前年度の約 2 倍に増加した。また、学生の貸出冊数も約 1.3 倍に増加している。

## (課題)

本学の中期計画には、下記の事項が掲げられている。図書館整備をする上で、重要な課題となっている。

- ・学生の学習のために附属図書館の開館時間の延長、土曜開館、情報検索システム、蔵書データのデジタル化による検索機能の充実及び運用体制などの整備を図る。
- ・蔵書スペースの狭隘化及び利用上の改善のために施設の整備拡充を検討する。
- ・図書予算を改善し蔵書を整備する。

# 福島県立医科大学附属学術情報センター

## (図書館の概要)

本学図書館は1950(昭和25)年、旧制医科大学の発足に伴い、基礎医学校舎に仮住まいの図書館から始まった。その後、1952(昭和27)年に附属病院裏に独立図書館の完成、1970(昭和45)年に大学本館前に新館の完成を経て、1988(昭和63)年大学の移転に伴い福島市郊外の光が丘に現在の図書館が完成した。1998(平成10)年に看護学部の新設に伴い増築を行い現在は鉄筋コンクリート2階建て3,400㎡、閲覧席276席、平成21年3月末現在蔵書数は209,067冊(内製本雑誌107,847冊)現行受入雑誌種数和雑誌1,007種、欧文雑誌346種(寄贈含む)の医学・看護学の専門図書館である。

1998(平成10)年3月本格的に図書館管理システムが導入され、OPACによる所蔵検索、コンピュータによる貸出管理ができるようになった。現在では館内には所蔵検索性端末4台と25台のPCが設置され、ネットワークを利用した文献検索、電子ジャーナル約2,000誌の利用などができる。2006(平成18)年4月大学が法人化された折に「福島県立医科大学附属学術情報センター」へ名称を変更した。

閉館時も利用者カード(ICカード)で入館できる時間外利用を行っており、大学内の教職員、学生は平日の閉館後から23時まで、土・日、祝日(特定の日を除く)は9時から19時まで、資料閲覧(学生は一部)、文献複写、PCが利用できる。2008(平成20)年度の入館者は延べ135,280人(内一般利用者3,915人)

県内の医学・看護研究者を主に閲覧などの公開は以前より行っていたが、2004(平成16)年6月からは一般利用者を含め、県内在住・勤務または県内大学に在籍する18才以上の方へ図書の貸出を開始した。2008(平成20)年度の登録者は910名貸出数1,463冊となっている。



## 青森大学・青森短期大学附属図書館

### (青森山田学園の設立目的と歩み)

青森大学の設立母体である青森山田学園は大正7年(1918)、山田きみ氏により「純潔・明朗・誠実・勤勉」をモットーに社会人養成機関として設立されました。昭和6年(1931)には青森家政学園が設立、昭和26年(1951)青森山田高等学校、昭和37年(1962)には青森短期大学が設立されました。現在では大学をはじめ大学院、短期大学、高等学校、中学校、幼稚園等を有する総合学園として発展し、地域社会はもとより全国に優秀な人材を数多く輩出している学園としてその名を知られるようになりました。

### (青森大学の設立目的と歩み)

青森大学は、昭和43年(1968)に経営学部・経営学科の発足とともに開設されました。県庁所在地でありながら、当時青森市には4年制大学がなく、本学は地域の要望に応えるために開設されました。

昭和56年(1981)には社会学部、平成4年(1992)には工学部、平成11年(1999)には、大学院環境科学研究科が開設されました。

平成16年(2004)には工学部を発展的に改組して、薬学部とソフトウェア情報学部を開設しました。

### (青森大学の教育理念)

青森の豊かな自然環境の中で人間性を育て、そして教養を身につけるとともに、社会に役立つ専門知識と問題解決型能力を身につける教育を目指しています。

実践的な能力を身につけるために、実習、演習、ゼミでの教育を重視し、これらの教育の中で、教員と学生の親密な関係が形成されているのが特徴となっています。

出張講義、公開講座、生涯学習講座などを開催して、地域住民の学習ニーズにも応えているのも特徴といえます。

### (青森大学・青森短期大学附属図書館の歩みと現在)

昭和37年(1962)青森短期大学附属図書館が発足、そして昭和43年(1968)青森大学附属図書館が発足されました。短期大学移転に伴い、昭和56年(1981)には短期大学との併設館となり青森大学・青森短期大学附属図書館と改称して歩み出しました。

また平成9年(1997)には施設拡充に伴い、新館を増設し現在のように本館と新館の2館体制で運用が開始されました。

平成11年(1999)にコンピュータシステムを導入し利便性の向上を図りました。

なお、現在の蔵書数は和書128,011冊、洋書21,963冊の合計149,974冊となっています。

まだまだ整備をしなければいけない図書館ですので、スタッフ一同持てる力を振り絞って頑張っています。

# 東北女子大学附属図書館

## (大学の概要)

本大学の建学の精神は三か条からなっている。

その一は「教育を生活の中に活かせ」、その二は「高い教養と正しい躰を身につけよ」、そしてその三は「常に希望をいだき時代と共に歩め」である。

本大学の使命と目的は、この建学の精神に基づき、家政学に関する高度の学術技芸を教授研究し、国民文化の向上と社会開発に寄与する専門的教育を施し、人間性の高揚を図り、自主独立の精神を培い民主的な文化国家及び社会の有意な形成者となるべき指導的女性の育成を目的とする。

本大学の図書館は附属図書館であり、総面積は 247 m<sup>2</sup>である。

平成 19 年の対象学生数は 95 名で、職員は館長 1 名、司書 2 名、図書館運営委員会 5 名で運営されている。附属図書館は、自習可能な閲覧室、特別閲覧室、書庫からなっている。

昭和 44 年創立から現在までの蔵書数は 35,016 冊で、雑誌類 76 種類、視聴覚資料 82、契約データベースは 1 である。

コンピューターは導入されたが、図書館管理の電子化等はこれからである。

開館時間は、月曜日から金曜日までは、8:30～18:30 で、土曜日は、8:30～13:00 となっている。

夏期および冬期休業中の開館は週 3 日程度となり、開館時間は 16:00 までとなっている。

平成 19 年度の年間開館数は 304 日であり、年間の学内利用状況は、6,904 名、学外からの利用者 1 名を加え 6,905 名である。

平成 22 年を目指して、新校舎・新図書館建築を検討・計画中である。

# 八戸大学・八戸短期大学図書館

## (大学の概要)

カトリシズムを建学の精神とし、真の意味で人間として生きる若者を育成するように「人間教育」を施すという理念等のもと、北東北唯一の「商学部商学科」として昭和56年4月に開学した。その後グローバル化時代の地域経済社会の内発的活性化を担う中核的人材を育成する目的をもって、その名称を平成16年4月より「ビジネス学部ビジネス学科」へと変更した。

平成17年4月には、今日的な社会状況やその潮流を理解しながら健康に関する科学的な知識と技能に裏付けされた「総合的な問題解決力」を備えた人材の育成を目的とした「人間健康学部人間健康学科」を新設している。

## (八戸大学・八戸短期大学図書館の概要)

### 【施設・設備】

本図書館は八戸大学と八戸短期大学の図書館を統合合併し、平成11年4月に新築された。鉄筋コンクリート造り2階建て(1,636㎡)で、1階はブラウジング・コーナー、AVコーナー、閉架書庫、事務室等の他、多目的ホールの機能を備えた礼拝堂(チャペル)が併設されているのが特徴となっている。2階は開架閲覧室(166座席)と研究室3室があり、研究室には視聴覚設備及びパソコンが設置されている。

なお、現在の蔵書数は約15万冊で、学術雑誌は約940種、視聴覚資料は約1,700点となっている。

### 【サービスの状況】

大学および短大の附置機関として、学生・教職員の学術・研究活動を支援・援助するため、必要なあらゆる資料の収集・提供に努めるとともに、開かれた大学図書館として地域文化に広く貢献することを目的とし、様々な図書館サービスを行なっている。また、開学当初より地域の一般市民の方々にも開放しており、学外者も利用できるようになっている。

平成18年度4月より、本学校法人の全事務局IT化推進プロジェクトにより教学事務システム及び会計・資産管理システムが稼動したことに伴い、図書館システムも変更し再整備した。その結果、学内LAN(Mihono Campus Navi)による「貸出申込」、「貸出図書の予約申込・照会」、「文献複写と現物貸借の申込・照会」、「リクエスト図書の申込・照会」等のサービスを開始した。そのため、学内利用者は、図書館へ来なくても、また図書館閉館後でもサービスを利用できるようになっている。

また、利用指導の一環として、図書館は「情報リテラシー教育」の担い手としての自負を持ち、「授業支援や教員との連携・協力体制の強化・充実」に重点を置き、積極的に取り組んでいる。基礎演習(1年次配当科目)において、「文献検索の基礎」、「レポート論文のまとめ方」、および「プレゼンテーション実演」の3コマを、司書が演習クラスごとに指導している。学生に共通テキストとして配布する『基礎演習とプレゼンテーションの手引き』も教員と分担して執筆し、毎年改訂を重ねている。その他、各学年、各ゼミクラスからの要望があれば「主題別検索法」、「情報検索の基礎」、「統計資料の収集法」、「企業情報収集法」、「著作権法」等の指導も行っている。その他、短大においては、司書の専門性を活かし「絵本の読み聞かせ」についての特別講義や、授業と連携した「読み聞かせ会」の開催等にも取り組んでいる。

さらに、「利用者への貸出サービス向上」を目指し、平成19年4月に図書館規程細則を改正し、館外貸出冊数と貸出期間を拡大した。図書は、教員は30冊まで2ヶ月間、学生は10冊まで2週間、未製本雑誌は教員25冊まで1ヶ月間、学生5冊まで1週間貸出できるようになっている。その他、「長期休暇中貸出」「卒論用長期貸出」「実習用長期貸出」の特別貸出サービスを設け、通常の貸出期間より長期間(1ヶ月～2ヶ月間)に渡り多数(最高15冊)の資料を貸出している。

その他、平成19年度からは、図書館の地域貢献として、一般市民を対象とした図書館独自の公開講座を開催している。

# 八戸工業大学図書館

## (大学の概要)

本学の前身は昭和31年(1956)に創立された八戸高等電波学校の開校にある。その後昭和34年学校法人八戸電波高等学校に名称変更、昭和36年学校法人八戸電波工業高等学校に改称、昭和46年さくら幼稚園を開園、昭和47年八戸工業大学を設置、昭和50年八戸電波工業高等学校を八戸工業大学第一高等学校に改称し、同校大開校舎(普通科)を八戸工業大学第二高等学校として開校した。開学当初工学部3学科であった八戸工業大学は、現在工学部、感性デザイン学部の2学部6学科、大学院工学研究科博士前期・後期両課程を有する大学となっている。

本学の図書館は開学当初閉架書庫であり、分類別書棚、五十音順書名書棚等で目的の本を検索した後、図書館員に申し出て本を受け取るシステムになっていた。蔵書数は和漢書、洋書合わせて約2万冊であった。その後平成6年図書館増床工事に伴い書庫も閉架から開架となり、現在は蔵書数も和漢書92,499冊、洋書15,788冊、製本11,584冊、それにDVD等AV資料が6,409本を揃えている。

## (最近の動き)

### ①無線ランの敷設

本学の図書館内には無線ランが敷設されており、貸出用パソコンとしてデスクトップ型5台、ノート型パソコン15台が準備され印刷用プリンターも整備されている。最近では常にパソコンが学生に貸出されている。

### ②夜間開館及び休日開館

開学当初9時から17時までであった開館時間を、現在は9時から21時まで延長した。(17時以降は学生アルバイトが開館事務を担当している)。また、休日開館として年間約60日の土曜日・日曜日も10時から17時まで開館している。

### ③学生の希望図書の購入

学生が個人では購入出来ない図書やAV資料を希望図書等購入願に書いて希望すれば、簡単な審査を経て図書館が購入する。

## (利用状況)

本学の図書館の年間利用者は約2万3千人(学外利用者も含む)であるが、学生数の減少に伴い、利用者は減少傾向にある。利用者の利便向上をはかるため、電光掲示板の設置、貸出パソコン台数の増加、開架図書への分かりやすい分類ラベル(たとえば教養とか電気、機械、土木など)の貼付などの工夫をしている。その結果、学生の減少にもかかわらず貸出冊数は年間4千800冊程度と変わっていない。DVDやVTを閲覧する学生の変化は見られないが、著作権処理済みDVDの貸出が増える傾向にある。また、パソコンの貸出も増えている。

学生閲覧室はエアコンがあり、夏は涼しく、冬は暖かく過ごせるため憩いの場所ともなっている。

## (課題)

現在図書館内の書庫では図書等が収まりきれない状況となっており、第二書庫を別な場所に設ける準備をしている。

# 弘前学院大学附属図書館

## (大学の概要)

弘前学院大学は、「畏神愛人」(神を恐れ人を愛する)を建学の精神とし人間性豊かな人格の完成を基にして、文学・福祉・看護に関する高度な専門性を意欲的に追求し、地域や国際社会に貢献できる人材の育成をめざす。3学部4学科および大学院2研究科からなる総合大学です。

創立者本多庸一は、津軽藩出身のキリスト者であり、後年青山学院第2代目院長として、またメソジスト弘前学院の教会初代監督としても知られるようになり、新島襄、内村鑑三、新渡戸稲造などと共に日本におけるキリスト教主義教育の先駆者の一人に数えられる人物です。

弘前学院は、当初設立基金の寄付者であるライト夫人の名前をとり、来徳女学校と称していましたが、その後、弘前遺愛女学校、弘前女学校、弘前聖愛高等女学校と改称しつつも、キリスト教主義教育を貫き、今日の礎を固めてきました。

弘前学院は、1886年 青森県における最初の女子普通教育機関として、本多庸一によって創設された。

1948年 学制改革により弘前聖愛高等学校と改称。

1950年 弘前聖愛短期大学英文科開学、その後弘前学院短期大学と改称。

1957年 家政科・国文科増設。

1951年 弘前学院図書館建設(坂本町)。

1971年 文学部(英米文学科、日本文学科)から成る弘前学院大学を併設。

1988年 短期大学家政科を生活福祉学科へ科名変更。

1999年 大学に社会福祉学部増設。男女共学化。

2000年 短期大学閉学。

2003年 大学院社会福祉学研究科・人間福祉専攻(修士課程)開設。

2005年 大学院文学研究科・日本文学専攻(修士課程)増設

2005年 大学に看護学部増設。

蔵書数は 和書 79,805 冊

洋書 18,540 冊

視聴覚資料 2,608 タイトル所蔵。

図書館報「書海」年1回発行。

# 岩手医科大学附属図書館

## (大学の概要)

本学図書館は、昭和3年、岩手医科大学の前身である岩手医学専門学校創設と同時に設置された。昭和40年に歯学部、平成19年に薬学部が新設され、全国でも数少ない医療系総合大学の附属図書館として、教育・研究・診療活動を支えている。本館（内丸地区）は医学・歯学の専門資料を中心に192,000冊、分館（矢巾地区）は一般教養書と薬学専門資料73,800冊の蔵書を所蔵しており、相互に連携を保ちながら業務を行なっている。古典医学書も所蔵しているが大半が未整理だったため、長期計画を立て段階的に受入と評価を進めているところである。

キャンパスが分散していることから学術雑誌（7,000種）については共有化を図る必要があり、薬学部設置を機に電子化推進の方針が打ち出され、現在は2,000種を越える電子ジャーナルを利用可能とした。平成20年に運用を開始したりモートアクセスサービスも好評である。平成19年度の受入資料は4,600冊、貸し出し総数は14,000冊、貸し出し人数は6,300人と年々減少傾向にある。相互貸借も同様で、貸数5,900件、借数2,500件とピーク時の7割程度にとどまっており、蔵書の特性上、病院図書室からの依頼が半数を占めている。

医療への関心の高まりを背景に、地域貢献の一端として、本館2階ロビーに医療情報コーナーを開設し、入院患者や一般市民に広く利用されている。分館も平成19年より一般公開を開始し、一般教養書の一部は館外貸出サービスも行なっている。

平成23年4月から、医学部・歯学部の4年生までは矢巾キャンパスで授業を行うことになり、それに対応した講義・実習棟の整備が予定されている。快適な学習環境の提供はもとより、電子版資料を有効に活用してもらうための方策（利用指導の強化、リンクリゾルバの導入、ポータルサイトの構築等）を検討していく必要がある。さらに、学内において生産される研究成果を蓄積・保存し、学内外に発信するための「機関リポジトリ」の構築も重要な課題となっている。

# 富士大学図書館

## (大学の概要)

本学は昭和40年4月学校法人京王学園奥州大学経済学部経済学科の単科大学として開学、同51年4月学校法人富士大学と改称し現在に至っています。学部は、経済学科、経営法学科、経営情報学科の3つの学科を持ち、それぞれの学科に特色ある複数のコースを設け、学生の目指す進路に応じた教育を展開しています。

## (図書館の概要)

当館は昭和40年開学とともに設立され、昭和62年秋に現在の5号館3階に移転しました。閲覧室、閲覧ホール、事務室、及び書庫(3-2-1階)が有り、閲覧室には、座席数250席、レファレンスおよび調査資料をはじめ開架図書約45,000冊と購読雑誌約160種、新聞17種等があります。

貸出や返却のカウンター業務をはじめ、蔵書データベースの構築には、図書館総合システム「CALIS」を平成10年、新学科「経営法学科」設置と同時に導入し、平成14年「CARIN」に更新、現在、約126,000件のデータが入力されています。OPACを公開するとともに、岩手県内図書館横断検索システムにも参加し、広く地域との連携も図っています。

## (蔵書数)

経済学、経営学、法学、情報学などの図書を中心に、現在170,220冊(和図書141,142冊、洋図書29,078冊；平成20年3月31日現在)を所蔵しています。この中には、会社社史及び経済団体社約1800冊余も含まれています。さらに大学院関係では企業財務及び税務に関する文献の収集に努めています。その他に学術雑誌3,896種(和雑誌3,647種、洋雑誌249種)、視聴覚資料(DVD、ビデオソフト)デジタル資料(CD-ROM；企業財務データ、マクロ経済データ、金融データなど)を保有し、利用者に提供しています。

## (利用状況)

平成17年度から開館時間の延長及び貸出冊数制限の緩和、学生の相互貸借料金の無料化を実施し、サービスの向上を目指しています。研究者及び大学院生のILL利用も定着し、相互利用件数も年々増加しています。

# 盛岡大学図書館

## (大学の概要)

盛岡大学は昭和 56 年（1981）年に開設された文学部のみ単科大学で、同一キャンパスに短期大学部が併設されている。文学部は、英語文化学科・日本文学科・社会文化学科・児童教育学科の 4 学科で構成されている。短期大学部は、食物栄養科・幼児教育科の 2 学科からなる。

本学は、キリスト教精神に基づく人材育成を掲げ、本学の教育理念から、「対話」を通して「言葉と知、豊かな心を培う」ことを具体的な行動原理として導き出し、「対話」の対象には教職員・学生等の他に大学をとりまく地域社会を包括している。「東北の地域に根ざしながら、学術の中心として個性を持った魅力ある大学をめざす」ことを教育目標のひとつとしている。

## (蔵書数)

図書館の蔵書は、文学部 4 学科及び短期大学部 2 学科の学科構成に対応し、文学・語学・教育学に栄養学を加えた分野を中心とした構成になっている。現在の蔵書は図書 159,000 冊、雑誌・紀要 2,670 種、視聴覚資料 5,600 点である。平成 17 年の新図書館への移転を契機に、特色ある蔵書構築事業を開始し、鈴木彦次郎・新渡戸稲造など岩手県ゆかりの人物に関する著作・研究資料等の収集をすすめている。

## (最近の動き)

本学図書館では学習・研究活動の支援といった基本的な図書館機能の充実に加えて、利用者である学生・教職員との「対話」を重視し、情報提供をより円滑に行い、学生の憩いの場としての機能を持たせながら知的活動や交流を進めることができること、かつ卒業生や地域社会に開かれた図書館とすることを目標に掲げてサービスを展開している。

図書館の利用法をはじめとする少人数を対象とした利用指導は、図書館における学生サービスの重要な業務となっており、教員の協力を得て年々受講者が増加している。平成 20 年度には、利用者教育への活用を目指して、東北地区図書館協議会製作の『図書館のすすめ』を元に『盛岡大学図書館のすすめ—大学図書館利用ガイド—』を作製した。

また、パソコン機器利用の多様化に伴い、学内ネットワークに接続できる検索機器及び蔵書検索専用パソコンを館内各所に配置している。各種データベースの検索利用を中心としたコーナーや印刷専用のパソコン・プリンタを設置、館内利用のノートパソコンを貸し出すサービスも行う等、学生の利用動向に対応したきめ細かなサービスを目指している。

保育士・幼稚園及び小学校教員養成課程があることから、主として幼児教育関係資料を一カ所にまとめ、絵本・紙芝居も加えて絵本実習書コーナーを設置しており、実習の時期には資料を選ぶ学生の姿が多く見られる。特に絵本や紙芝居については、周辺住民の利用も増えている。

平成 20 年度には地域開放事業の一環として、一般社会人を対象に図書館主催による講座及び講演会を企画した。「子どもと本の幸せな出会い」をテーマに 3 回の連続講座 2 回の講演会を開催、講座は 98 名講演会は 280 名と多くの参加があった。

# 修紅短期大学図書館

## (大学の概要)

本学は明治 32 年に創立された小梨こま裁縫学校に始まり、一関裁縫修紅女学院を経て昭和 28 年に修紅短期大学を開設し家政科を設置、昭和 33 年には保育科を増設した。

その後、時代の変化に即応して学科の改組改変を行い、現在は幼児教育学科・食物栄養学科の 2 学科を設置している。

## (蔵書数)

現在の設置学科である幼児教育関係、食物栄養関係のほかに家政学関係の専門書等が比較的多い。現在は、約 21,800 冊となっている。

## (最近の動き)

### パソコンの設置

インターネット利用可能なパソコンを設置し検索等に活用している。また、無線ランにより閲覧室等での学生貸出用ノートパソコンでのインターネット利用も可能である。

## (課題)

電算化についての遅れがあげられる。現在は簡易的な図書管理システムを利用しているが今後、システムの向上をはかる必要がある。

# 岩手看護短期大学図書館

## (大学の概要)

本学の設立母体は学校法人岩手女子奨学会で、この法人は岩手の医学の父と言われている故三田俊次郎先生が設立されたもので、本学は、その系譜を引く故三田俊定先生と名誉理事長の三田明子先生により、東北地方で初めての私立看護短期大学として平成2年に設立されました。本学では三田俊次郎先生の教育理念である「医学・看護教育を通じて誠の人を育成する」を受け継ぎ、心暖かく豊かな看護者の育成を心掛けてきております。そして、既に1,600人を超える看護師を送り出しました。

美しい自然に囲まれた素晴らしい環境のなか、ナースキャップをモチーフとした白亜の3階建ては、看護短期大学に相応しい外観を呈しております。

## (図書館の構成)

当館は主に看護学の図書を専門とする図書館で、1号館2階の本館図書館とマルチメディアセンター3階のe-ライブラリーから構成されます。本館図書館には約20,000冊の図書資料が揃っており、看護学、医学、一般書のほかに、言語学や日本文化に関する図書を揃えた「うざ禰文庫」(故小松代融一初代学長寄贈)、岩手(I)・コミュニケーション(C)・看護学(N)は本学の英語の頭文字(Iwate College of Nursing)ですが、それを基軸に収集した「小池文庫」(小池明子名誉教授寄贈)、そして本学関係者による出版物を揃えた「槇の文庫」の3つの文庫があり、本学で学ぶ学生や研究活動を進める教員をしっかりと支えております。

一方、e-ライブラリーには複本のみをおよそ1,000冊配架しております。そのほか講義で使用する教科書、副読本、国家試験対策用図書及び最新号から遡って昨年度分までの雑誌が備えてあります。また、備付けのパソコンや各閲覧席に設置された情報コンセントは開館中いつでも自由に使うことができます。e-ライブラリーは図書室、学習室、情報室の3つの用途を兼ね備えた人気のある施設となっております。

## (蔵書数と最近の動き)

本学の蔵書数(概数)は、購入図書が12,000冊、寄贈図書が8,000冊で、製本雑誌が2,800冊で、寄贈図書のうち「うざ禰文庫」は2,000冊、「小池文庫」は400冊、「槇の文庫」は70冊となります。当館は製本雑誌の電子登録がようやく今年度末に完了し、それにより製本雑誌の検索が可能になりました。また、学生及び教員への更なるサービス向上に向けて、本学での公式行事、イベント、外部から講師を招いての特別講義、そして戴帽式や研究発表等を集録したCDを貸出す準備も進めております。

## (利用状況と課題)

本学は短大であることから、学生にとっては非常に忙しいカリキュラム構成で、このことから図書館の利用は看護学の資料を探す目的がほとんどで、一般書の利用率は格段に少ないと言えます。一般書に目を向けるような、興味をそそるような新しい図書を購入、配架することも考えてはみるものの現実的には難しい状況にあります。

# 仙台大学附属図書館

## (大学の概要)

仙台大学は体育学部一学部の単科大学で、40年の歴史を持つ体育学科をはじめ、健康福祉学科、運動栄養学科、スポーツ情報マスメディア学科の4学科から構成されている。それらの学科では、「スポーツ・フォア・オール」という基本理念の下、保健体育教師の養成はもちろん、トップアスリートから高齢者や障害を持つ人まで、あらゆる人々を対象としたスポーツや健康づくりに貢献できる指導者や専門家を養成している。

## (蔵書)

蔵書数約10万冊のうち3分の2が体育・スポーツ学関連とその関連領域の専門図書で占められている。東北・北海道唯一の体育大学として開学以来、体育・スポーツ関連分野を中心とする文献、夏季・冬季オリンピックを含む各競技大会の報告書、学術雑誌のバックナンバーなどが充実していることが特徴であり、体育・スポーツ関連の専門図書館として位置づけられる。また、最近では図書・雑誌のみならず関連するデータベースなども提供している。

## (利用状況)

図書館の利用は、本学の学生・教職員のみならず広く市民に開かれており、学外者の利用も多く、体育科学・スポーツ科学などの発展に寄与している。近年は健康意識の高まりなどから、体育・スポーツの指導者や研究者だけでなく一般の利用者も増加している。

## (取り組み)

### ①利用者アンケートの実施

利用者サービスの向上と業務の効率化を図るために毎月3～4問程度の簡単な利用者アンケートを実施している。翌月には、寄せられた質問・意見に対する回答や集計結果を公表し、直ちに改善するようにしている。常に利用者の様々な要望・意見を知ることができ、選書やサービスを見直す上で大変参考になっている。

### ②狭隘化の解消

一昨年には各大学の紀要を収納する図書館分室、昨年度末には、本館に隣接するかたちで寄贈図書を収納する専門書庫、洋書を収納する専門書庫が設置され、狭隘化の改善に役立っている。今後はこれらの分室の積極的な活用が懸案事項である。

## (課題)

電子ジャーナルの積極的購入やホームページの機能の充実など、情報機能の強化が今後の課題として挙げられる。少しずつ導入してはいるもののまだ提供数が少ないのが現状である。将来的には機関リポジトリの構築もできるよう、電子化を推進していく必要がある。

# 仙台白百合女子大学図書館

## (大学の概要)

仙台白百合女子大学は、1996年に開設された。その前身である仙台白百合短期大学（1966年開設）は、2002年、四年制大学に昇華統合された。現在の仙台白百合女子大学は、人間学部1学部、人間発達学科、総合福祉学科、健康栄養学科、国際教養学科の4学科編成である。

2006年、キャンパス整備の一環で、それまで3室に分かれていた図書室を既存の建物を改築して一箇所にまとめ、図書館棟としてリニューアルした。学内の他の施設との名称と合わせるため、前学長片岡照子先生の推薦により、ラテン語で「知の泉」を意味する FONS SAPIENTIAE と名づけられた。



## (蔵書)

図書約9万冊、雑誌約300誌。2007年には、詩人・エッセイストである佐岐ゑりぬ氏（中村真一郎未亡人）より、若い世代にもできるだけ読んでほしいとの希望から、中村真一郎の著書約130冊を寄贈していただいた。特殊コレクションとして中村真一郎文庫と名づけ、学生へ供している。現在は、特色ある蔵書を目指して、カトリック関係資料等の収集も計画している。

## (最近の動き)

### ○図書館改築

改築に伴い、自動図書貸出装置やブックディテクションシステムを導入し、入館者の増加につながった。周りが緑に囲まれ静かで明るい館内は、学生にとって居心地のよい空間として浸透しているようである。

### ○ライブラリー・サポーター

2007年度より、アルバイトとしてライブラリー・サポーターを学生に依頼している。図書館の書架整理・清掃を通して、学生の利用マナー向上や学生との連携につながるのではないかと期待されている。

### ○開館時間の延長

学生からの要望に応え、2008年度より平日を19時までの延長開館とした。2009年度からは土曜日を1時間延長して13時までの開館となり、更なる利用者増を目指している。

## (利用状況)

ソフト面に力を入れるべく、データベースの充実を図り、資料の検索方法をはじめとして文献の探し方など、各学年に対応した図書館検索ツアーを実施している。その成果もあって学内の文献複写依頼が近年増加の傾向にある。今後の地域開放を視野に入れ、卒業生をはじめ、隣接する高齢者福祉複合施設「カリタスの丘」からの利用者も受け入れている。

## (課題)

地域への知的貢献のための図書館の開放が昨今望まれているが、本学は女子大ゆえ治安及び危機管理の問題がある。期間限定で受験生への図書館開放を協議中である。前身である仙台白百合短期大学開学より40年以上の月日が経っているが、いまだ10万冊に満たない蔵書数をいかにして増やしていくかということも、課題となっている。

# 石巻専修大学図書館

## 《本学の特色》

一人ひとりの対話を大事にする総合大学

石巻専修大学は「社会に対する報恩奉仕」を見学の精神として1989年に開学。

2008年に創立20年を迎えました。現在では、その見学の精神を現代に引き継ぎ、21世紀ビジョンとして「社会知性の開発」を掲げています。

「習ったことがないことでも正しい判断ができる力」が「社会知性」の大切な部分であり、産業界・社会が求めている力でもあります。

このような社会知性を身につけ、社会で活躍する人を育てることが本学の使命だと考えています。

## 《図書館の概要》

本学図書館は、1989年の本学開学とともに設置され20年が経過した。蔵書数の増加、学術情報の迅速かつ正確な提供サービス体制の確立、時代の流れを的確に把握し2004年には図書館システムの更新を行い、利用者はインターネットを経由し、本学ホームページ上からの多くの情報検索サービスを受けることが可能となり、図書館の利便性は格段に向上した。

## 《蔵書数》

本学図書館の蔵書数は約150,000冊であり、その内訳は、和書約96,000冊、洋書約55,000冊である。その他、学術雑誌は、和書が1,182タイトル、洋書が778タイトルとなり、時代の流れとして電子ジャーナルへの転換タイトルも実施している。

## 《利用者に対するサービス体制》

閲覧座席数は、1階から3階まで合計261席である。この座席数は閲覧対象者である学生及び教職員の総数約2,200人に対して約10名に1席の割合です。開館時間は、本学の講義終了時間18時20分であるが、月曜日から金曜日までは9時から19時30までとし、公的交通機関を利用したの通学することを考慮しての開館時間としている。

さらに、地域住民への本学蔵書利用は閲覧のみに限定されているが、2005年度より本学図書館は地域に開かれた大学を目指し、高等学校生以上の年齢（15歳以上）の地域住民に対して、蔵書の貸出を実施している。このように「図書館の地域への開放」に関しては、地方新聞及び市広報を通してPRを行い、毎年200名以上の手続者がおり確実に増加している。

## 《今後の課題と取り組み》

今後は、学術洋雑誌の電子ジャーナルへの転換を早急に進め、利用者の利便性を確保すると同時に狭隘化した収蔵資料スペースを捻出することとしている。

また、劣化資料及び学術雑誌のデジタル化を推進するとともに、重複しかつ利用度の少ない蔵書の積極的除籍を実施することが必要であると考えている。

# 東北学院大学図書館

## (大学の概要)

東北学院最初の図書館は、1891年に仙台神学校（東北学院の前身）完成と同時に、アメリカ・リフォームド伝道局財務担当ルドルフ・ケルカーよりの寄贈図書をもって開設され、その功績を讃え「ケルカー記念図書館」と称し開館されました。



1891頃の  
『ケルカー記念図書館』



中央図書館  
(土樋キャンパス)

ケルカー記念図書館は、日本文学でも名高い岩野泡鳴や島崎藤村なども利用した図書館であり、島崎藤村はケルカー記念図書館の多くの洋書を耽読したといわれています。その後、1953年に東北学院第二代院長シュネーダー先生を記念して「シュネーダー記念東北学院図書館」（現在の大学院棟）として開館しました。

現在の中央図書館（新シュネーダー記念東北学院大学中央図書館）は、1985年に東北では屈指の収蔵能力約100万冊という大規模図書館として土樋キャンパスに開館しました。旧図書館は中央図書館分室として、主に研究者および大学院生向けとして利用されています。

多賀城キャンパス図書館は、1962年に工学部新設と同時に工学部図書室が設けられ、その後、多賀城キャンパス北西の小高い丘に1982年10月に開館しました。環境も十分に考慮し、静粛な雰囲気での学習できるよう配慮されています。



多賀城キャンパス  
図書館

泉キャンパス図書館は、泉キャンパス5号館に1988年4月に開館しました。広々とした明るい雰囲気でのゆったりとした学習できるよう最新の図書館機能を備えた施設です。



泉キャンパス図書館

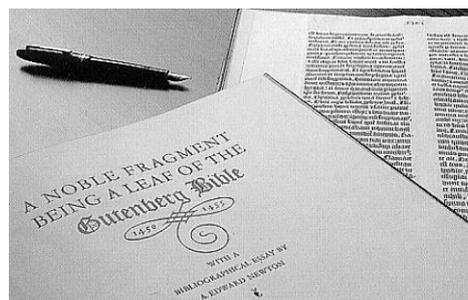
中央図書館・多賀城キャンパス図書館・泉キャンパス図書館・中央図書館分室を合わせた所蔵冊数は約1,133,000冊、所蔵雑誌タイトル数は約15,500タイトルです。(2008年3月31日現在)

本学では近年の外国雑誌の電子化を受け、電子資料の導入拡大を積極的に進めています。その一環として2007年に公私立大学図書館コンソーシアム(PULC)へ加入、2008年にはELSEVIER社 Science Direct コンプリートコレクション及びフリーダムコレクションを導入し、「教育・研究・学習の中核としてのハイブリッド・ライブラリー」の形成を目指しています。

## (主な本学所蔵貴重書コレクション)

### 【キリスト教関連図書コレクション】

熊野義孝氏、笹尾条太郎氏、竹森満佐一氏、山谷省吾氏の旧蔵書を中心とした、明治初期からのキリスト教関連図書のコレクション。上記四氏の個人蔵庫だけで、10,000冊を超える。この他に、東北学院創立以来の蔵書や、個人・団体からの寄贈図書なども含め、一大コレクションを形成していたが、これに加え、2007年秋山憲兄氏より、伝道用に作られたトラクトと呼ばれる小冊子を多数含む、約450点の明治期キリスト教書の寄贈を受けたことにより、この分野の図書所蔵では本邦有数の規模を誇るコレクションが完成。



ゲーテンベルク「四十二行聖書」  
原葉1枚(1455年頃・マインツ刊)

### 【イギリス古典派経済学関連図書コレクション】

「アダム・スミスコレクション」と「マルサスコレクション」から形成される、イギリス古典派経済学者の著者の初版本を中心に収集したコレクション。図書の他に、マルサス直筆の書簡なども収める。192点。

### 【アジアコレクション】

正式名称を「東西文化の接触と相互影響、および<ウエスタン・インパクト>政策形成の基礎文献に関するコレクション」といい、16世紀から19世紀にかけて、西欧において刊行されたアジア地域に関する図書を中心に収集。図書の他に、『坤輿全図』の作者として知られるフェルピースト(南懐仁)直筆の書簡なども収める。127点。

# 東北工業大学附属図書館

## (大学の概要)

本学は昭和 39 年 (1964) 4 月、工学部に電子工学科 (現知能エレクトロニクス学科) と通信工学科 (現情報通信工学科) の 2 学科で開学した。その後、日本の経済成長に伴い地域産業界の強い要請に答える形で建築学科、土木工学科 (現建設システム工学科)、工業意匠学科 (現デザイン工学科)、平成 13 年 4 月には環境情報工学科を増設し工学部としての体制を確立した。

平成 2 年 4 月には八木山キャンパスに加え長町キャンパス (旧二ツ沢キャンパス) を開設してさらに教育研究条件を整え、平成 4 年 4 月から平成 15 年 4 月にかけて大学院工学研究科博士前期課程 (修士課程) ・後期課程 (博士課程) の電子工学、通信工学、建築学、土木工学、デザイン工学、環境情報工学の 6 専攻を設置した。

また、平成 15 年 10 月には「創造から統合へー仙台からの発進ー」のスローガンのもと仙台市の中心部に「一番町ロビー」を開設し、サテライトキャンパスとして活発な活動を展開している。

さらに、平成 20 年 4 月には文理融合型の教育研究をするクリエイティブデザイン学科、安全安心生活デザイン学科、経営コミュニケーション学科の 3 学科を有するライフデザイン学部を誕生させ、2 学部 8 学科大学院 6 専攻を擁する総合大学となっている。

## (蔵書数)

本学の図書館は八木山キャンパス本館と長町キャンパス分館から成っており、本館は主として理工学の専門教育に直結した学習・研究図書館として、分館は教養教育並びにデザイン・生活・経営などの専門教育に直結した学習・研究図書館としてそれぞれ機能し運営している。現在大学全体で、和書 169,422 冊・洋書 52,146 冊の図書 221,568 冊、和雑誌 1,150 種・洋雑誌 603 種の雑誌 1,753 種を所蔵している。

特に外国雑誌は、専門分野において利用頻度・引用頻度・索引誌への掲載頻度が高く権威がある Core journal 並びに利用者相互に共通の関心をよび、図書館備え付けにより活発な共同利用が期待できる Common journal を系統的に備えてきた。

しかし、昨今の外国雑誌の高騰、為替の変動、予算の減額などにより、一部継続不可能とせざるを得ない状況も生じてきている。

なお、平成 20 年 4 月に開設したライフデザイン学部の図書、学術雑誌、視聴覚資料等については、3 年並びに 5 年計画で教育研究上必要な資料を重点的に揃えることになっている。

## (図書館の施設・設備)

八木山キャンパス本館は昭和 43 年 4 月 (1968) に建設してから 41 年経過した。

その後、平成 7 年には蔵書数の増加に伴い一部増築し、書庫並びにレファレンスを充実させたが、開設当時の施設・設備は老朽化し、他大学の近代的な図書館に比べると古さが際立っているのが否めない。また、書庫は満杯でその対策を早急に進める必要に迫られている。

長町キャンパス分館は、平成 2 年 4 月長町キャンパス開設と同時に開館したが、平成 20 年 4 月ライフデザイン学部開設時に新築した 3 号館 2 階に図書館を移転して、現在 34,035 冊所有し開館図書館として運営している。

# 東北福祉大学図書館

## (大学の概要)

本学の淵源は明治8年(1875)に創立された宮城県曹洞宗専門学支校にある。その後、梅檀中学校等を経て、昭和33年(1958)に東北福祉短期大学を開設し、4年後の昭和37年(1962)に短期大学を廃止して4年制大学の東北福祉大学となった。当初は社会福祉学部社会福祉学科の1学部1学科であったが、時代の変化に即応して学部学科の増設改変を行い、現在では総合福祉学部・子ども科学部・健康科学部・総合マネジメント学部の4学部9学科に大学院と通信教育部(学部・大学院)、さらには附属病院せんだんホスピタルを擁する総合大学となっている。

## (蔵書数)

本学の図書館は、大学開設に当たり、その前身である梅檀高等学校時代の蔵書を引き継ぎつつ、福祉学関係の専門書を中心に整備された。とはいえ、例えば昭和42年当時の蔵書数をみると、和漢書18,800冊、洋書3,340冊、計22,140冊に過ぎず、和漢書については本学の前身を反映して仏教関係の典籍が多かった。しかし、その後の大学の規模拡大に伴って蔵書数も急激に増加し、現在では約310,000冊となっている。

## (最近の動き)

### ①無線LANの敷設とUGA

本学の「PC1000プロジェクト事業」により館内に無線LANが敷設され、全学生がパソコンを利用できるようになった。そこで学生の館内でのパソコン利用を支援するために情報福祉学科学学生有志による支援組織として図書館UGA(アンダー・グラデュエイト・アシスタント)を立ち上げ活動している。

### ②貴重図書の購入

子ども科学部の設立を記念して、ステラ『子どもの遊び』(初版、1675年)とフレーベル『人間の教育』(初版、1826年)を、健康科学部の設立を記念して、ナイチンゲール『病院に関するノート』(初版、1859年)・同『産科施設に関するノート』(初版、1871年)を、さらに社会福祉学部から総合福祉学部への名称変更を記念して、ボネト『聾啞者教育法』(初版、1620年)を購入した。

### ③和漢書目録の作成

懸案であった本学所蔵の和漢書の整理が8年の歳月をかけてようやく終了したため、平成19年度事業として『東北福祉大学図書館所蔵和漢書目録』を刊行した。

## (利用状況)

本学の利用対象者は、通信教育部の学生も含め10,000人以上に上っており、年齢層も幅広くなったため、以前に比べてよりきめ細かな利用者への配慮が求められるようになってきた。また、入学生の初年次教育の充実強化の声に応えるために、『図書館のすすめ』を活用しながら、利用教育に積極的に取り組んできている。その結果、平成19年度では開館日数324日、年間入館者数約13万人を数えるに至った。

また、学外からの文献複写依頼の多さも本学図書館の際立った特徴であり、文献複写受付数は、NACSIS-ILL加盟館1,099館中、65番目(「NACSIS-ILL統計情報H20」)となっている。本学の蔵書構成が優れていることの表れと自負しているところである。

## (課題)

何といっても狭隘問題に尽きる。この問題はかなり以前から指摘されてきたもので、特に書庫はスペースの確保がきわめて困難な状況になりつつある。今後とも抜本的な解決策を大学当局に働きかけていく必要がある。

# 東北文化学園大学総合情報センター図書館

## (大学の概要)

本学の前身は、昭和53年3月に設置された学校法人東北文化学園及び宮城デザイン専門学校である。昭和60年2月に学校法人木村学園から東北商科専門学校を継承するなどの過程を経て、昭和60年9月に、東北情報工学、東北医療福祉、東北工科情報の3専門学校の体制となり、平成5年4月に東北科学技術短期大学が開学された。平成11年4月には、この短期大学が、医療福祉、総合政策、科学技術の3学部を有する東北文化学園大に生まれ変わった。その後、大学院の設置、アレン国際短期大学の合併、各学部学科の定員増等を経て、平成16年6月に大阪を拠点に学校・病院運営を行っている藍野グループの傘下に入り、「地域の発展に貢献する高度の技術・技能を備えた実務者の育成」を使命感とし運営している。

## (蔵書数)

本学の図書館での大学開設時の蔵書数は、和書38,306冊、洋書9,872冊、計48,088冊から、その後の大学の規模拡大に伴って、平成20年3月31日現在、和書78,428冊、洋書14,507冊の合計92,935冊となっている。

## (最近の動き)

### ①無線LANの敷設

ノートパソコンを全学生に貸与する制度が2006年に始まり、それと同時に本学の主要場所に無線LANが敷設された。図書館内においても、学術情報のアクセス環境整備を目的に、アクセスポイントが1箇所敷設された。それによりインターネットを用いての学術情報収集量が増加した。

### ②電子媒体資料の導入

当館は永年、書籍や逐次刊行物等所謂紙媒体を中心に資料収集を行ってきたが、医学・工学文献、過去の新聞記事の検索は、従来の紙媒体やインターネット無料ホームページでは限界があるため、大学院博士課程が設置された2007年に主要な電子媒体資料の利用を契約し、サービス向上に努めている。

### ③SJの活用

本学では、Student Job関係の学内制度をSJと呼んでいる。この制度は、学生の修学支援を目的に、学内清掃業務や図書館業務の一部を委託している。尚、この制度は、平成19年度に、私立大学等経常費補助金特別補助(採択制補助)、教育・学習方法等改善支援の一つに、「学生を活用した図書館の開館時間延長とサービス向上」として採択され、多くの高等教育機関が関心を示している。

## (利用状況)

図書館の開学時は年間貸出冊数1,234冊だったのに対し、平成19年度では9,155冊のように増加している。利用者が求めている内容も、専門分野から一般書まで多岐に渡っている。又、図書館職員が授業科目の1コマを使い、授業を行い利用教育にも積極的に取り組んでいる。

当館では、図書及び逐次刊行物のNACSIS-CAT所蔵登録を行っているため、学外からの文献複写依頼の多いことも本学図書館の特徴である。文献複写受付数は、平成17年度では382件、平成19年度は516件となっている。

## (課題)

平成17年度の自己点検報告書では、(1)図書館資料を含む情報収集、(2)図書館資料を含む情報提供、(3)館内設備、(4)図書館情報の周知対策、の4点を課題として列挙した。その内、(2)及び(4)については、遡及入力や利用者教育の実施によって改善の方向へと進みつつあるが、資料費増額や設備更新の実施が滞っていることが課題となっている。

# 東北薬科大学附属図書館



## (大学の概要)

本学は、昭和14年(1939年)東北・北海道地区唯一の薬学教育機関である東北薬学専門学校として創立され、昭和24年(1949年)に東北薬科大学として開学しました。

平成21年に創立70周年を迎えるにあたり、記念事業の一環として平成20年7月には図書館・情報センター棟を新築しました。地下1階地上2階建からなる図書館・情報センター棟には、図書館、情報センター教室、自習室、高柳記念室が併設されています。また、蔵書は薬学を中心に自然科学、医学系を多数所蔵する構成となっています。

新図書館は、地階と1階で構成され総面積2,036平方メートル、閲覧席210席を備えています。館内は白木の家具で統一された明るい雰囲気となっています。移転後は、着実に利用者も増加していますが、今後はさらなる利用者サービスの充実を目指します。

蔵書数	図書(冊)			学術雑誌(種)			電子ジャーナル(種)	視聴覚資料(点)
	和書	洋書	合計	和書	洋書	合計		
	56,354	40,434	96,788	467	432	899		

年間受入数	図書(冊)			学術雑誌(種)		
	和書	洋書	合計	和書	洋書	合計
	1,058	878	1,936	205	114	319

利用状況	開館日数(日)	利用対象者数(人)	利用者数(人)
	279	1,800	54,206
	貸出数(冊)	相互協力(受付)	相互協力(依頼)
	2,264	110	401

# 宮城学院女子大学図書館

## (大学の概要)

宮城学院は、福音主義キリスト教に基づいて学校教育を行い、神を畏れ敬い、自由かつ謙虚に真理を探究し、隣人愛に立ってすべての人格を尊重し、人類の福祉と世界の平和に貢献する女性を育成することを建学の精神として、1886年(明治19年)、宮城女学校の名で創設された。それはアメリカの改革派教会派遣の宣教師たちと日本人のキリスト者たちとの協同の祈りの結晶であった。

以来、明治、大正、昭和の時代を通して女子の高等専門教育を担う専攻科(聖書・家政・英文・音楽)を設置し、戦後の学制改正により高等女学校は宮城学院中学・高等学校となり、女子専門学校は宮城学院女子大学・短期大学(附属幼稚園付設)となって、女子教育の一大総合学園として現在に至っている。

現在、大学院(修士課程)は2研究科5専攻、大学(学芸学部)は10学科から成り、普通科の高等学校(2つのコース)と中学校及び大学附属幼稚園を擁している。

## (図書館の利用状況)

本学の利用対象者は、学生(院生・研究生を含む)、教職員、生涯学習受講生など4,000名である。2007年度の開館日数は268日である。利用状況は、貸出総数26,717冊、貸出人数13,701名である。学外複写受付件数は、2,093件である。

利用者教育は「図書館のすすめ」を利用し、ゼミ単位のガイダンス、閉架書庫入庫オリエンテーションを中心に行っている。2007年度は89回実施し、参加総数745名であった。

## (収蔵図書の増大と対策について)

本学図書館は324,972冊の図書の収蔵可能であると見られているが、2008年3月現在386,073冊(内訳:和書285,667冊、洋書100,406冊)の蔵書数となっており、その他、雑誌・紀要類が7,256種類収蔵されている。この状況を緩和するために、図書保管サービスの利用、また、①蔵書(特に重複図書)の廃棄・譲渡・払い下げなど、②電子化などによる図書資料の軽減を考えている。①については、現行の「図書館管理規程」の「除籍・抹消」に関する部分の見直しが必要と考え、「図書館管理規程」の改正案と「図書館資料除籍細目」を教授会に上程し承認された。②の資料の電子化については、費用の面もあり、外的な動向を見極めながら検討していくことになる。

## (新図書館構想について)

書庫の狭隘化対策として、図書委員会(現図書館情報部委員会)より、提案された「新図書館建設構想」は、現在「学術情報館構想」として、本大学の「将来構想委員会」において検討されている。

その構想の基本方針については、現図書館は今まで通り書籍(紙媒体)に対応した施設として存続させることとする。ただし、現図書館は新館建設と併行して既存施設(視聴覚室、目録室等)の整理・改修を行い、できるだけ多くの図書を開架に並べるよう工夫する。それと同時に、増え続ける蔵書については、廃棄・譲渡・払い下げ等の措置を考える。

新たに建設する学術情報館は、組織・運営・その他において現図書館とも種々連携しながら、基本的には紙媒体以外の多様なメディアに対応した施設(メディアセンター)を中核として、教育・研究・その他、各種ミーティングに利用できるグループ学習室、生涯学習センター、ギャラリー、シアターホール、カフェあるいはレストラン等を備えた複合施設とする。そのコンセプトは「学びと出会いと憩いの空間」である。

# 尚綱学院大学・尚綱学院大学女子短期大学部図書館

## (大学・短大の概要)

本学の教育は1890年にアメリカ合衆国バプテスト婦人外国伝道教会から派遣されたミスミードらの夫人宣教師たちが開いた家塾での地味な教育・伝道活動から始まった。1892年には「尚綱女学会」を発足し、1899年に「私立尚綱女学校」として正式認可を受け、初代校長にミス・ブゼルが就任した。戦後の学制改革に伴い、学校法人尚綱女学院は中学校、高等学校、短期大学、幼稚園を開設し、女子教育の発展に貢献してきた。1989年には短期大学キャンパスを名取市ゆりが丘に統合移転し、2003年には法人名を尚綱学院に変更するとともに、尚綱学院大学を開学し、男女共学の高等教育機関に飛躍した。2007年には大学院の新設と大学の学科増設を行い、現在は大学は1学部5学科、短期大学は1学科、大学院は2専攻の総合大学となっている。さらに2010年を目標に子ども学科の設置を進めている。

## (大学図書館の概要)

本学図書館の起源は初代のブゼル校長が自分の蔵書の一部(現ブゼル文庫)を生徒らの閲覧用に開放したことにある。その後、蔵書は増え続け、1989年のキャンパス移転時には短期大学図書館(分室を含む)は延べ床面積473.8㎡、蔵書数73,730冊の東北の有数の短大図書館になっていた。現在の図書館は延べ床面積807.1㎡、蔵書数約118,200冊の大学・短大共用の図書館であるが、2009年9月開館を目標に収容冊数20万冊の新図書館(愛称:Almo、アルモ)の建設を進めている。

## (最近の動き)

2007年度から文部科学省の教育・学習方法等改善支援「学術情報システムの再構築—「自立した学習」を支援できる図書館へ」の補助金を得ている。また2007年から東北では他大学に先駆けて業務委託を行い、専任1名と委託スタッフ7名で図書館を運営しているところである。

## (利用状況)

2008年は開館日数255日、年間貸出冊数12664冊、学生一人当たり7冊となっている。年間のべ入館者数は86,286名で昨年と比べ14%も増加した。また図書費やデータベースの予算は2008年度17,981,000円で、前年度と比べ6%増加した。また、名取市及び太白区在住者への貸し出しやゆりが丘公民館を通じた名取市図書館への貸出しなど地域に開かれた図書館としても機能している。図書館システムの導入以来、書籍と雑誌の書誌データの遡及入力を進めており、館内の書籍と雑誌についてはほぼ入力を終えている。

## (新図書館の概要)

2009年秋開館を目標に建設中の新図書館は「知の協働空間」をテーマに①コラボレーション、②コミュニケーション、③コンセントレーション(集中)の3つのCをコンセプトとする延べ床面積2,337㎡、鉄筋コンクリート(内部は木造)2階建て、閲覧席数200席の新しい図書館である。2階にある入口を入ると卵型の通路に沿ってブラウジングスペースや絵本コーナー、利用者同士の協働を進める大小のグループ学習室、DVDやCDを視聴するAVブース、約400タイトルの雑誌スペース、サブカルチャーの研究のためのコミックコーナーなどが配置されている。木製の階段を降りると1階には4つの開架書架スペースや総合カウンター、レファレンスコーナー、「知」と「知」の出会いを演出するディスカバリラウンジ(多目的展示スペース)、閲覧席、学習室、コンピュータスペース、電動周密書架が並んでいる。エレベーターや身障者用トイレの設置などユニバーサルデザインにも配慮している。省エネ面でも冷暖房負荷を減らす工夫をしており、21世紀の図書館にふさわしい設計となっている。また、新図書館では、グループ学習室での各種の講座や展示スペースでの学内外からの情報発信、無線LANによるコンピュータネットワークの構築、特徴のある蔵書づくりのほか、運営への学生の参加、リーディングアサインメントなどの図書館利用インセンティブなどについても検討をすすめており、運営面でも21世紀型の図書館を目指している。



尚綱学院大学 新図書館(愛称Almo)完成予想図 2009.9開館予定

# 聖和学園短期大学

## (大学の概要)

聖和学園短期大学は、「慈悲」と「和」という仏教主義に基づく教育を建学の精神とし、1951年(昭和26年)開学された。1987年(昭和62年)にはキャンパスを木ノ下から泉区南中山に移転。元々3学科だったが、2005年より多彩な科目から学生の将来に合わせたカリキュラムを選択できるキャリア開発総合学科を新たに開設したことにより、保育福祉学科との2学科、男女共学となった。

## (図書館概要)

図書館は、全館が開架式で自由に閲覧ができるようになっている。規模は小さいが、大きな窓から明るい光が差し込み、緑を眺望できる安らげる空間になっている。閲覧席は、仕切りのある個人閲覧席と、4人掛け閲覧席を設けている。AVコーナーには、ビデオ・DVD再生機を2台ずつ設置している。

- |            |                              |
|------------|------------------------------|
| (1) 述べ床面積  | 428 m <sup>2</sup>           |
| 開架書架       | 約 30,000 冊                   |
| 閲覧座席       | 56 席                         |
| ブラウジングコーナー | 4 席                          |
| AVコーナー     | 2 席                          |
| 検索用パソコン    | 2 台                          |
| 移動書架       | 約 20,000 冊                   |
| 事務室        |                              |
| 紀要室        |                              |
| (2) 蔵書数    | 図書 50,270 冊                  |
|            | 視聴覚 917 点                    |
|            | 雑誌 69 種                      |
|            | 新聞 5 種                       |
| (3) 館員     | 2 名 (うち専任 1 名、臨時 1 名)        |
| (4) 奉仕対象   | 776 人 (うち学生 635 人、教職員 141 人) |

## (今後の課題)

改組によるカリキュラムの変更に対応した図書の整備、書架の収容スペースの確保、江戸期の俳諧研究においての貴重な資料である「飯野文庫」(全 723 冊)の保存方法を決定し、保管庫を確保すること等が挙げられる。図書館利用の活性化に向けて、計画的に実施していきたい。

# ノースアジア大学附属図書館

## (大学の概要)

平成19年4月より校名を秋田経済法科大学よりノースアジア大学に名称変更しました。秋田栄養短期大学、明桜高等学校、附属のびのび幼稚園・のびのび保育園、附属さくら幼稚園、秋田看護福祉大学をもつ総合学園であります。

さらに、平成19年4月には、法学部に観光学科を新設しました。平成20年度には、『学習成果』を重視し、卒業生の質の保証、「能力の修得」と「明確な目標」を身につけるために卒業試験を導入しました。



附属図書館2階カウンター

建物構成	1階	ホール・ブラウジング・閲覧室・閉架書
	2階	貸出・返却カウンター・開架書庫・学術雑誌コーナー
蔵書数	172,527冊（和144,245冊、洋28,258冊）	
座席数	300席	

## 〔文庫紹介〕

### ○信淵文庫

郷土の先覚者、江戸後期の経世家で農政学者である佐藤信淵関係資料が収められています。佐藤信淵研究会研究誌「信淵研究」の他約250冊。

### ○佐藤文庫

秋田経済大学初代学長でありました、佐藤藤佐先生の蔵書、おもに法学関係図書・資料約850冊が収められています。

### ○中村文庫

中村常次郎先生の蔵書、おもに経営学関係の図書約2,200冊が収められています。

### ○高山文庫

哲学者であり、本学学長をされました高山岩男先生の蔵書、おもに哲学関係の図書約650冊が収められています。

### ○丸山文庫

丸山健先生の蔵書、おもに法学関係の図書約1,100冊が収められています。

### ○長谷山文庫

長谷山行毅先生の蔵書、おもに法学関係の図書約150冊が収められています。

### ○岡部文庫

岡部秀温先生の蔵書、おもに法学関係の図書約900冊が収められています。

### ○小田切文庫

小田切松義先生の蔵書、おもに商学・会計学関係の図書約1500冊が収められています。

# 東北芸術工科大学図書館

## (大学の概要)

本学は平成4年に、「東北ルネサンス」を掲げ高い理想と大きな志を持って開学した。日本文化の源流ともいえる東北の地にしっかりと軸足を置き、芸術とデザインの力で、現代社会の抱える様々な課題を解決できる人材の育成を、その使命としてとらえている。

開学時に2学部5学科でスタートした学部編成は大学院3専攻（修士・博士後期課程）を加え、平成21年度の学科再編で、2学部8学科構成となった。東北文化研究センターをはじめ、文化財保存修復センター、こども芸術教育研究センター、デザイン哲学研究所等の研究機関を整備し、教育研究環境の充実を図っている。

## (蔵書数)

平成4年の大学開設当初和書約19,000冊、洋書約8,000冊、計27,000冊でスタート。その後、山形新聞社からの大規模な蔵書寄贈、東北文化研究センター開設に伴う歴史学系、民俗学系の研究書籍整備などにより、蔵書数がわずか10年ほどの間に3倍以上に増加した。その後は、芸術系の資料を中心に、視聴覚資料を含め特色ある資料収集をすすめ、現在では約124,000冊となっている。

## (最近の動き)

### ①キャンパスモバイル、無線LANの整備

学生個人がノートPCを所有しており、図書館を含めた学内すべてのエリアで無線LANを利用できるようになったため、本学の蔵書検索のみならず、ゆとり都OPACや学都仙台OPACも活用頻度が高まっている。

### ②特色あるコレクションの構築

アートブックストア「NADiff」との連携により、現代アート系を中心とした特色あるコレクション構築に取り組んでいる。

### ③図書館の企画展示

利用促進のため、「地球のいのちを考える」「戦争と平和と芸術を考える」などのテーマを設定、専用コーナーを設置し継続的に展示・貸し出しを実施している。

### ④山形国際ドキュメンタリー映画祭事務局との連携

館内のAVルームで定期的にドキュメンタリーフィルムの上映会を開催している。

## (利用状況)

学生数は約2,150名（平成20年度）である。年間の入館者数は167,800人、貸出件数・人数は増加している。また、学年を問わず、WEBを経由した蔵書のリクエストやILL申込みが盛んに行われている。本学への相互貸借の申し込みも増加しており、蔵書の種類が多岐にわたっていることが実感される。

# 羽陽学園短期大学附属図書館

## (大学の概要)

本学は、昭和 40 年開校山形幼稚園教諭養成所そして翌 41 年名称変更の山形保育専門学校を前身としている。昭和 50 年に山形市から天童市に移転。昭和 57 年に、幼児教育科単科の短期大学である羽陽学園短期大学を開設した。昭和 59 年障害児保育研究センターを付設。平成 2 年には介護福祉士養成の専攻科福祉専攻を開設した。優れた幼児教育指導者や、高齢者・障害者の介護を含む福祉の専門家の養成を目指している。

## (蔵書数)

本学附属図書館は、幼児教育・福祉の専門書を中心に図書の収集を行っている。さらに、幼児教育に関連し絵本、児童文学、紙芝居等の収集にも力を入れている。現在の蔵書数は約 54,300 冊である。

## (最近の動向)

### ①附属幼稚園保護者への図書館開放

天童市、山形市にある本学附属幼稚園 3 園の保護者に図書館を開放している。幼稚園への送迎時に子ども連れで来館し絵本や図鑑、紙芝居などを借りていく姿を目にするようになった。

### ②ゆうキャンパスリポジトリで紀要公開

大学コンソーシアムやまがた学術情報部会「ゆうキャンパスリポジトリ」において、本学紀要(第 8 巻～)を公開している。

### ③学生図書委員

本学はクラス制をとっており、各クラスの図書委員が年間を通して活動している。活動内容としては、日常の書架整理から委員推薦図書のポスター作成、学園祭への参加など多様であり、毎月入れ替えになる図書の企画展示は、特に好評を得ている。

## (利用状況)

小規模校がゆえに、学生へのきめ細かいサービスを心がけている。新入生オリエンテーションでは館内ツアーも行い、例年ほぼ 100 %の出席率となっている。2 年次学生への「卒業研究のための文献検索レクチャー」も約 8 割の学生が受講している。また、実習が多い本学の学生のため、実習に合わせた長期貸出を行っている。こうしたことから、年間の学生の貸出冊数は 1 人平均 16 冊と高い数字になっている。

## (課題)

視聴覚資料の充実と視聴覚機器整備が急務の課題である。また、書架の狭隘化も切実な問題であり、適切な資料の入れ替えや除籍を検討している。

# 山形短期大学附属図書館

## (大学の概要)

本学は、大正 15 年（1926）山形裁縫女学校として創設され、女性の社会的・経済的な自立を促すための職業訓練校としてスタートした。その後幾多の変遷を経て現在に至っている。本学は総合文科学科、子ども学科、人間福祉学科、留学生別科の学科体制を擁する男女共学の短期大学である。「敬・愛・信」の建学の精神のつとめとして人間性豊かな、真に社会に貢献しうる実践的な人間の育成を目指している。

## (蔵書数)

本学は、昭和 41 年（1966）に国文科の単科短期大学として開学した。その後幼児教育科（現子ども学科）、英文科、人間福祉学科が開設された。図書館としては、各学科のカリキュラムに対応した資料収集を行ってきた。現在は、国文科と英文科が統合して、総合文化学科が平成 17 年（2005）に設置された。学科の変更により本館の資料収集も様変わりし、ジャンルを問わず様々な分野の資料が求められるようになってきている。国文科の開学期間が約 40 年に及ぶことから、日本文学に関する資料が蔵書の中で占める割合が高い。現在本館では約 109,000 冊の図書を所蔵している。

## (最近の動き)

### ①蔵書データの学外公開

平成 20 年度（2008）の図書館システムの更新にともない、蔵書データの学外公開が実現した。学外からの蔵書データ検索が可能になったことにより、学生への利用者サービスはもとより、地域の利用者への貢献ともなっている。また、山形大学を中心とした県内大学図書館等の、所蔵データの横断検索にも参加することが出来るようになった。

### ②デジタルデータベースの充実

学生の利用が多様化していることもあり、様々な情報環境を提供したいと考えている。デジタルデータベースも有効な情報源となっているので、新聞記事検索・雑誌記事論文・図書の出版情報等を利用者に提供している。また「大学コンソーシアムやまがた」の山形県内の大学間ネットワーク加盟館が同時アクセス可能なデジタルデータベースなどもあり、有効に活用されている。

## (利用状況)

利用対象学生は、約 800 名である。本館では『図書館利用のしおり』を毎年発行している。4 月のオリエンテーション時に配布し、図書館の利用法を説明している。学生を対象とした情報検索法等の「図書館ガイド」も、随時行っている。

本学生の年間入館者数はのべ 48,000 人、開館日数は 259 日となっている。学生の図書館利用は、図書の借用に限らず多様化している。視聴覚資料の充実、情報検索やインターネット利用可能なパソコンの設置の整備等、多様化に対応した図書館の環境整備につとめている。また、開館時間の延長を実施し、図書館利用を促している。入館者数は近年増加の傾向にある。

# いわき明星大学図書館

## (大学の概要)

いわき明星大学は、学校法人明星学苑傘下の総合大学で1987年に(昭和62年)開学した大学である。開学当初は理工学部と人文学部の2学部で構成されていたが、2005年に理工学部を科学技術学部へ改称し、2007年4月には薬学部を開設し、3学部体制の総合大学となった。

薬学部が開設されたことに伴い、薬学部棟、薬用植物園が新設された。同時に本学図書館の拡張施設として隣接に学習センターも新設された。

図書館は地上3階地下1階建て、学習センターは地上3階建てで、2つの建物は各フロアとも床続きの一体化した建物となっている。学習センターの2,3階は2層のステップフロアでありながら一体感を感じさせ、幅18m・長さ39m・最大天井高7mの大空間のスペースになっている。大学の正門から見ると真正面に見える建物が図書館であり、キャンパスのちょうど真ん中、各学科の学生の生活線上に位置している。

## 【最近の動き】

学習センターが新設されたことに伴い開館時間の延長も実施している。従来は19時まで(土曜日は15時まで)だったが、2007年度から21時まで(土曜日は17時まで)開館となった。延長時間の対応は業務委託の採用で実現し、職員は定時(9～17時)勤務が可能となった。

さらに、入館方法について入館ゲートを、学生証やライブラリーカードによる認証方式から、認証を行わずに誰でも通過できる方式とした。(入館ゲートに人が近づくと、自動的に開くようになった)。入館時の制限を設けないこと、いつでも入館できることで利用者が増加し、施設の有効利用や図書館の活性化にもつながり、入館者数は、学習センター新設前と比べ約2倍、貸出冊数も1.3倍に増加を示している。また、学生ばかりでなく市民利用者も多く見受けられるようになり、利用者カードの手続きも増加している。BDS(資料の無断持ち出し検知システム)による持ち出し監視は従来通り実施している。

図書館の蔵書は約23万冊あり、その中で開架に配架している蔵書数は、5～6万冊ある。書庫入庫手続きは必要とするが書庫も自由に見ることが出来る。各利用者がすべての書架をブラウジングできるようになっている。

また、開架の一部に2008年度からは、シラバスコーナーを設置した。シラバスおよび授業内容と連動した資料を収集し学生の授業前学習、授業後学習の支援、履修の参考資料としての利用など、学生の図書館の利用促進を図った。

オンラインデータベースは「Sci Finder (Academic)」「Japan Knowledge」「聞蔵ビジュアル」他、6件ほど図書館で契約し(合計9件)、ホームページからリンクさせている。

## 【今後の課題】

教員と連携した形でのガイダンスを今まで以上により多く実施する必要がある。

特に1年生には主に大学での学習・研究に必要な図書の見つけ方、OPACを使用した資料の見つけ方について、そして3年生を対象にしたガイダンスも、卒論対策・文献の見つけ方などのガイダンスをより多く実施していきたい。

今後の取り組みとしては、学生支援体制の充実、サービスに向けた対策として、学習センターを自学自習の場と位置づけ、ラーニングコモンズとしての機能を強化していわき明星大学の学生が集まる中心的なエリアにし、さらに、学生を教室から図書館へと誘導・接続して、自宅より快適な学習空間の提供をしていきたい。

# 奥羽大学図書館

## (大学の概要)

本館は、本学の前身である「東北歯科大学」が創立した昭和47年4月を嚆矢とする。当初は、病院棟1階に本館を設け、一般教養図書8,810冊、専門図書21,219冊、雑誌363種をもってスタートした。昭和51年9月、中央棟の完成に伴い、その1、2階を現在の本館として移転した。

平成元年4月、文学部開設と同時に校名を「奥羽大学」と変更した。ここに本館は、自然科学系と人文科学系の専門書を擁する新たな学術図書館へと踏み出すこととなった。その間、昭和48年5月に東北地区大学図書館協議会、同年6月に東北地区医学図書館協議会、昭和53年10月に日本医学図書館協会、平成2年3月に私立大学図書館協会、さらに平成17年11月に日本薬学図書館協議会に加盟し、全国の大学図書館等のコンソーシアムのひとつとして連絡、協力にあたり、対外的な図書館活動が、一層促進されることとなった。

一方、文学部関係（平成19年3月廃止）の蔵書増加に伴い、書庫狭隘対策として、平成5年以降毎年小規模ながら書架の増設を行ってきたが、平成10年には大規模な改修工事を行い、書架7,473段、総延長6,725.7mの増設を行った。

さらに平成16年4月、薬学部が新設されることに伴い、設置準備用の図書・雑誌等の購入を図り、また図書館拡張工事と書架増連工事を行った。なお、現在の蔵書数は、図書約23万冊、視聴覚資料約3,000点である。

図書館管理システムについては、平成3年より「NEW図書Ⅱ」を使用していたが、平成5年には「情報館」にバージョンアップを図り、カウンター業務、発注・受入処理、資料組織化、利用者管理等図書館業務のトータルシステムが完備し、平成9年6月には図書データの遡及入力を完了した。

さらに、今日の情報通信技術の発展を視野に入れ、平成12年にはインターネット接続端末を設置し、利用者が自由に各種の情報検索が行えるようにした。また、図書館のホームページも開設した。蔵書の特色は、歯学、医学、薬学分野の図書・雑誌がコアとなっており、英・仏・日本文学関係の専門図書も充実している。

職員数については、現在図書館長総括のもとに、専任職員7名が業務に専念している。



1・2階部分が図書館

# 郡山女子大学図書館

## ・大学の概要

学校法人郡山開成学園の歴史は昭和 22 年に創設された郡山女子専門学院を母体とし、昭和 25 年郡山女子短期大学を設立、その後昭和 30 年に附属幼稚園、昭和 32 年に附属高等学校を新設して短期大学との連携を図る。

引続き昭和 41 年に郡山女子大学を設置し、さらに平成 4 年には大学院を開設した。現在では大学院、大学（1 学部 2 学科）、短期大学部（5 学科 2 専攻）、短大専攻科という学部構成である。これぞ建学の精神「尊敬・責任・自由」に基づき女子の総合教育機関として、人間生活の基本の学を探求している。

## ・図書館紹介

郡山女子大学図書館は昭和 41（1966）年、本学に大学が設置されるとともに現在地に開館した、老松に囲まれた閑静な雰囲気の中にあって、調査・研究の場として多くの学生、教員に利用されている。図書館棟は平成 10（1998）年に内装工事が、平成 18 年には耐震補強工事とそれに伴う館内のレイアウト変更がそれぞれ実施され、阪神・淡路大震災クラスの地震にも耐えうる施設になっている。

図書館棟は 2 階、3 階に図書館が、1 階には「日本風俗美術館」を整備している。建物の中心には 5 層の積層書架を配置し、自然科学・社会科学、歴史系の資料と学術雑誌のバックナンバーを集積している。2 階閲覧室には参考図書、新設図書および新着雑誌を排架し、インターネットが利用できる末端を 10 台設置し利用者に開放している。3 階閲覧室には芸術・語学・文学関係の資料を排架し、特に楽譜と他大学発行の紀要を別置して利用の便宜を図っている。学内 LAN をキャレルデスクに配線し、本学が学生に貸与しているノート型パソコンによるインターネット接続を可能にしている。

所蔵資料は平成 20 年 4 月現在で和書 92,820 冊、洋書が 14,825 冊、購読雑誌が約 200 タイトル、契約しているデータベース、電子ジャーナルが 7 タイトルとなっている。

図書館ホームページ

<http://library.koriyama-kgc.ac.jp/>

# 東日本国際大学・いわき短期大学学術情報センター 昌平図書館



## (大學及び図書館の概要)

東日本国際大学・いわき短期大学学術情報センター昌平図書館は、東日本国際大学・いわき短期大学の共用施設として設置されている。

東日本国際大学は、平成7年4月にいわき短期大学の商経科を改組転換し、経済学部1学部で開学した。現在は、経済情報学部・福祉環境学部の2学部2学科1別科(留学生別科日本語専修課程)より構成されている。いわき短期大学は、昭和41年4月に開学し、現在は幼児教育科・専攻科福祉専攻の1学科1専攻科で構成されている。

## 《学術情報センター昌平図書館》

### \*蔵書構成

本学の学術情報センター昌平図書館における蔵書数は、約77,000冊、雑誌は約300タイトル、視聴覚関係は約500種、電子情報関係は数件導入されている。

近年は、学生の利用向上を目標とし、読みやすく、理解しやすい、科目に利用できるものを選定している。また、学生および教職員からの要請に随時応えるなど、利用者主体の図書館構成を心がけている。

さらに、未所蔵資料への対応は、相互利用(NACISIS-IILL)など他館とのネットワークも有効に利用し、学生の利用向上を推進している。

### \*設備

昌平図書館は、講義棟の1・2階にあり、1階の書庫は開架式固定書架が中心で、さらに密集書架を増設し、狭小化に対応している。2階の閲覧室は、100席の座席と6席のグループ学習室、自習室兼AVルームがある。閲覧室の一部には、ノート型パソコン利用スペースがあり、持ち込みで利用できる環境である。

### \*利用状況

利用対象者は、本学の学生・教職員・卒業生、地域の一般利用者である。一般利用者に対しては、開館時間内は、いつでも利用できる環境を提供している。

利用状況は、学内外共通で福祉・幼児教育の割合が多い。今後の課題は、図書館のレファレンスサービスを有効に利用していただき、専門書をはじめ所蔵資料の利用率を高めていきたいと考えている。

# 日本大学工学部図書館

## (工学部図書館の概要)

日本大学工学部の歴史は、1947年(昭和22年)、東京の駿河台にあった専門部工科を福島県郡山市に移転したことから始まる。昭和24年に、各県に新制大学、国立大学ができたが、その年に学制改正により、第二工学部として新制の大学になった。そして1966年、第二工学部から工学部に名称変更をした。

さて、工学部の概要として、工学部図書館の変遷、図書館の入り口、館内、雑誌、書架の状況、そして、工学部図書館の取り組み、レティ・コレクションすなわちレオナルド・ダ・ヴィンチの資料があるが、それらを紹介する。

学部開設当時は4,000冊の蔵書と閲覧室、事務室のみで、図書館員は一人であった。書棚は構内の杉を伐採して作り、使用した。昭和28年8月に、日本大学図書館の第二工学部分館になった。昭和41年4月に日本大学図書館工学部分館となり、この当時、蔵書数は約3万4,000冊であった。昭和44年11月に、日本大学工学部図書館となり現在にいたっている。

館内は、ブラウジング、視聴覚室があり、だいたい1日平均入館者数は約400人、1日平均の視聴覚利用者10人、また、視聴覚室の資料室は3,000点、新聞は和紙8紙、洋紙1紙の、合計9紙、雑誌は25誌である。

閲覧室は、1階から5階まであり、全部で642席である。ちなみに工学部の学生は1年生から4年生まで約5,000名余。院生を含めると6,000名近くになる。また、学部隣接して日本大学東北高等学校がある。

蔵書数は和書が17万冊、洋書が5万7,000冊、合計で約23万冊である。

新着雑誌は、土木、建築、機械、電気電子、物質化学、情報工学、総合教育用であり、和雑誌が278誌、洋雑誌が175誌、合計453誌である。

和雑誌のバックナンバー、洋雑誌、書架バックナンバーで、蔵書数は国内雑誌が4万5,079冊、国外雑誌が6万4,616冊、合計で10万9,695冊である。学術雑誌の所蔵タイトル数は、2,938である。

OPACと複写機は、館内の各フロアに備え付けてある。

無線LANは、図書館内のすべてのフロアで個人用のパソコンに対して使用可能な状態になっている。

次に、工学部図書館の取り組みであるが、平成14年度から前・後学期の定期試験に合わせ、利用者の利便性を図るために休日開館を行っている。平日の開館時間は、9時から20時まで。土曜日は、9時から15時までの開館である。また年2回、高校生を対象としたオープンキャンパスを行っている。工学部は7月と9月に行っており、図書館を開放している。

工学部にはレティ・コレクションがある。レティというのは、レオナルド・ダ・ヴィンチの研究者の名前である。工学部は昨年に60周年を迎えた。その10年前の工学部の創設50周年を記念して、工学部の図書館で資料を購入した。ダ・ヴィンチは絵画の『モナリザ』、『最後の晩餐』等々有名である。しかし天才でありさまざまな業績を残している。『マドリッド手稿』、手稿というのは手書きの原稿である。ダ・ヴィンチの手書きの原稿、マドリッドの手稿という有名なものがある。この編集者であったラディスラオ・レティ博士の所有していたものを譲り受け、レティ・コレクションと名づけて工学部に保管している。

『マドリッド手稿』の中身は、絵画だけではなくて土木、建築、機械など、いわゆる工学的なものであり、『モナリザ』に代表される芸術家のダ・ヴィンチとはちょっと違った面を有している。

このような多岐にわたるレオナルドの業績は、現在、世の中で話題となっている異業種技術交流あるいは境界領域の分野の仕事を、レオナルド・ダ・ヴィンチが一人で取り組み、完成したものである。そのような資料がここに多数入っている。レオナルド・ダ・ヴィンチの凄いところは、どれをとっても自然現象の観察力の深さと分析力の鋭い才能を持っていることにあり、このような態度はこれからエンジニアを目指す学生の目標とすべきものである。

このレティ文庫には、レティ博士の著書、論文が22点ある。さらに、レオナルドの手書きの手稿、素描、素画、美術、芸術、思想、工学、自然科学、レオナルドに関する研究書が199点、レオナルド関係で、レティ博士が持っていた蔵書373点を収蔵し、必要に応じこれらを外部に公開している。

# 桜の聖母短期大学図書館情報センター

## (大学の概要)

1932年(昭和7年)カナダのコングレガシオン・ド・ノートルダム修道院から5名の会員が派遣されて福島市に仮の修道院を開設した。戦争の苦しい時代をくぐりぬけて1946年(昭和21年)桜の聖母小学校を開設、1955年(昭和30年)桜の聖母短期大学を開設した。

1955年当初の図書館は木造校舎で自然光が注がれる細長い部屋を隙間なく占めていた。最初の蔵書冊数は14,123冊であった。設置申請の中の将来計画によれば、2年目の終わりまでに蔵書を2万冊まで増やす予定であった。英語学科と家政学科の専門書の他に、選書計画は「特に法律、経済、自然科学の図書不十分につきこの点に留意する」とあった。建学の精神を達成するために、豊かな教養教育を支える図書を重視していた。しかも、聖母の特色である英語教育を支援するために、洋書は外国のノートルダム姉妹校の寄贈が約束されていた。これらの本は聖母の洋書コレクションの核となり、いまだに使われることがある。

1963年にマリア校舎が完成すると、図書館は4階の広い部屋に移り、蔵書数は4万冊になった。しかし、スペースの限界や資料の重量が建物そのものに過剰な負担をかけ始めた。1995年にマリアンホールが完成し、図書館情報センターは生涯学習センターと共に、新しい建物に移った。新しい図書館はゆとりをもって配置され、自然光を最大に閲覧に活かしている。入り口の奥に個人用机が並び、本棚は右と左に配置されているので、入ってくる利用者はゆったりとした広さを感じる。

マリアンホールに移ることを機に、蔵書目録を電算化した。以降、1998年にコンピューターシステムを更新し、さらに使いやすいものへと換えた。

同じ1998年に司書の講習を始めた。専門図書は不十分であったので、3年計画で図書館情報学関連図書を500冊ほど購入した。次の年から、夏休みに図書館をラボにして司書の演習科目を開講した。現在、年間30人ほどの学生は司書の勉強の一環として、目録作成及び分類作業の練習を図書館で行っている。

図書館情報センターは地域に開かれるようになった。生涯学習センターの受講生は登録をすれば学生と同様に図書館を利用することができる。さらに、福島県内大学図書館協議会相互利用制度を通して、他大学および県立図書館の利用者までサービスが広がっている。現在までの地域住民登録者数は159名で、平成20年度は411名の入館者があり、90名が305冊の図書を借りた。

平成20年度の図書館情報センター利用状況は次の通りである。図書館を訪れた学生は延べ25,000人であり、教職員は延べ1,799人であった。学生は図書館の落ち着いた雰囲気求めて、閲覧や勉強をしている。

現在の蔵書冊数は53,489冊であり、そのうち8,839冊は洋書である。本年度の増加冊数は1,177冊、そのうち176冊は洋書、196冊は寄贈または製本による増加であった。除籍冊数は52冊であった。購入した図書は授業関連のものがほとんどだが、建学の精神を反映する資料、学生の福利に役立つ資料であった。

学生は図書5,573冊、雑誌172冊、視聴覚資料(館内閲覧のみ)1,003点を借りた。教職員は図書430冊、雑誌238冊、視聴覚資料162点を借りた。

図書館情報センターの2名の司書のうち、一人は本学で司書の資格を取得した卒業生である。

# 福島学院大学図書館情報センター

## (図書館の概要)

宮代キャンパス図書館と駅前キャンパス図書室の2ヶ所からなっており、大学部と短期大学部が共用している施設である。

両キャンパス図書館(室)間はネットワークでつながっており、蔵書等資料データを共有し、どちらのキャンパスからでも貸し出し・返却ができ、キャンパス間毎日往復する定期便がデリバリーサービスを提供している。

図書館情報センターは地域に全面開放し、一般市民・県民の利用が最近多くなっている。

### ①宮代キャンパス図書館

女子短期大学として昭和41年4月に創設され、大学の本館1階に図書館が設置されたが、現在の宮代キャンパス図書館は平成63年8月に竣工し、地上5階・地下1階の鉄筋コンクリート構造の独立棟である。

館内施設として、大小閲覧室、書庫、インターネットコーナー、視聴覚資料利用ブース、リスニングラウンジ(音楽を聴く設備)、大視聴覚室、スタジオ、オートチェンジャ(ビデオ視聴)などがあり、**書庫は1階と地下1階の2層となっている。**

**書庫は9万冊の蔵書が収容できるが、いまは約6万冊を所蔵し、全館開架式となっている。**

1階には映像教材製作部署のCTV放送室があり、制作された実習や大学祭、海外研修旅行等の映像資料をいつでも自由に視聴できる装置としてオートチェンジャが1階の玄関ロビーに設置されている。

地下1階には、書庫のほか、学内放送用映像番組の制作スタジオがあり(教室として兼用)、3階には、120人収容できる大視聴覚室があり、4階・5階は閲覧室である。5階は静かに勉強する16席の閲覧室で、4階は89席がある大閲覧室である。

学術雑誌が約40種、事典辞書や六法等参考書や教員推薦書などの資料が大閲覧室に数多く置いてある。

2階は図書館の中心部であり、貸出/返却・レファレンスなどのカウンターサービスやインターネットの利用、視聴覚資料の鑑賞、新聞閲覧コーナーなど基本的な施設設備が整っており、利用しやすいように整備され、機能している。

館内には、図書館基本業務を担当する業務課のほか、映像教材の制作や学内行事の記録撮影を担当する部署としてCTV放送室があり、また大学発行のすべての資料の保管、歴史沿革資料の展示、七夕やクリスマス等季節展など各種展示会の主催・企画、学内ディスプレイの作製・飾り付けを担当する部署として記念館資料室がある。

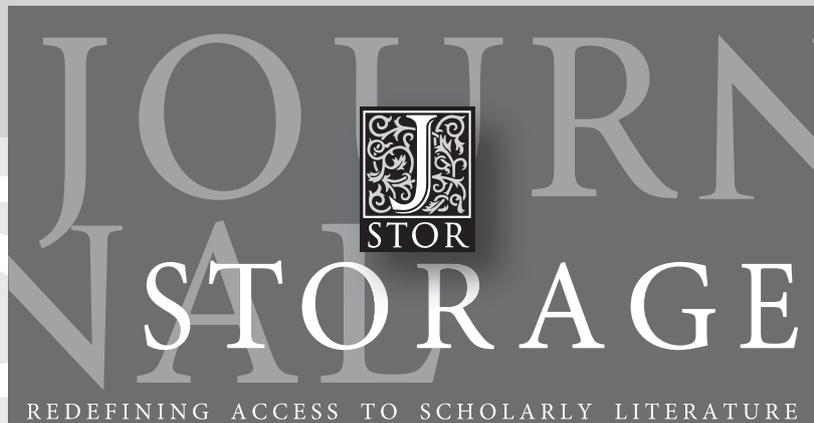
### ②駅前キャンパス図書室

平成18年4月に開講された駅前キャンパスの6階に図書館情報センター分室として設置された。

約200平米のワンフロア、15,000冊の蔵書が収容できるが、いまはおよそ11,000冊蔵書している。

学術雑誌は約50種購読しており、電子ジャーナルの閲覧やデータベースの検索利用もできる。インターネット利用コーナーは5席、視聴覚資料コーナーは2席、ノートパソコン持込利用のできる自習室には閲覧机が28席、そのほか、一般閲覧机は18席、新聞コーナーや新着図書コーナーなどもあって、利用者ニーズに答え、リクエストなど随時受け付けている。





JSTORは、先端の情報技術を活用し、学術情報流通の向上を目的とした米国の非営利団体です。コアな学術雑誌の総合的かつ信頼性の高いアーカイブを作成すること、これら資料へのアクセスを大幅に向上させることを使命としています。

すべての収録誌が創刊号からフルテキストでご利用いただけます。※最新号は含みません。

1

### "My JSTOR"

個人アカウントを作成することで、閲覧した文献情報をユーザー毎に管理することができます。この文献情報はEndNote等の文献管理のソフトウェアでの二次的な活用が可能です。

My Saved Citations [Help](#)

6 Citation(s) Date Saved

Sort by: Date saved(most recent to oldest) >

Select/unselect all Export article citations Delete

- Some Maestrichtian Palynomorphs and Their Phytogeographical and Paleocological Implications** 02/26/2008  
David M. Jarzen  
*Palynology*, Vol. 2, (1978), pp. 29-38
- Richard Wright and Native Son: Not Guilty** 02/21/2008  
Dorothy S. Redden  
*Black American Literature Forum*, Vol. 10, No. 4 (Winter, 1976), pp. 111-116
- Review: A Contrarian View of Abraham Lincoln as the Great Emancipator** 02/15/2008  
W. Fitzhugh Brundage

2

### 扱いやすい検索機能

通常の単語検索から、雑誌のタイトル等、複数の書誌情報を組み合わせた検索が可能です(近接演算子が利用可能)。検索履歴の保存も可能です。

Advanced Search [View Tutorial](#) | [Search Help](#)

Full-text AND

Full-text AND

Full-text AND

Full-text

Search for links to items outside of JSTOR ?

Limit to:

Type:  Article  Review  Editorial  Pamphlet

Date Range: From:  To:  (specify dates as yyyy, yyyy/mm, or yyyy/mm/dd)

Language: All Languages

Title:

Enter Title

3

### 閲覧・印刷のしやすさ

ページのサムネイル表示で、閲覧の見通しが容易です。ページフォーマットはPDFで提供され、閲覧環境を選びません。

The Vampire in Roumania  
Agnes Murgoci  
*Folklore*, Vol. 37, No. 4 (Dec. 31, 1926), pp. 320-349  
Published by:

[< Previous Item](#) | [Next Item >](#)

Select a page View: [Thumbnails](#) | [Links Only](#) View: [12 per page](#) | [All](#)

[< Previous 12](#) | [Next 12 >](#)

320 321 322 323

企業・営利機関もご契約が可能です

指定代理店

# ユサコ株式会社

<http://www.usaco.co.jp/>

●東日本営業所

〒106-0044 東京都港区東麻布2-17-12  
Tel. 03-3505-3256 Fax. 03-3505-6282 E-mail. [tokyo-sales@usaco.co.jp](mailto:tokyo-sales@usaco.co.jp)

●西日本営業所

〒532-0003 大阪市淀川区宮原2-14-10 中尾ロイヤルビル  
Tel. 06-6393-0303 Fax. 06-6393-0617 E-mail. [osaka-sales@usaco.co.jp](mailto:osaka-sales@usaco.co.jp)

# Scopusは、研究活動のあらゆる段階における 情報活用をサポートするツールです。



- 読んでおくべき論文を、本当に漏れなく集められているのだろうか？
- あの論文の発表後、どのように研究が進んでいるのだろうか？
- 入手可能なフルテキストをもっと効率よく集められないだろうか？
- 自分の論文がどのように引用されているか素早く調べられないだろうか？

Scopusが  
このような悩みを解消します。

[www.scopus.com](http://www.scopus.com)

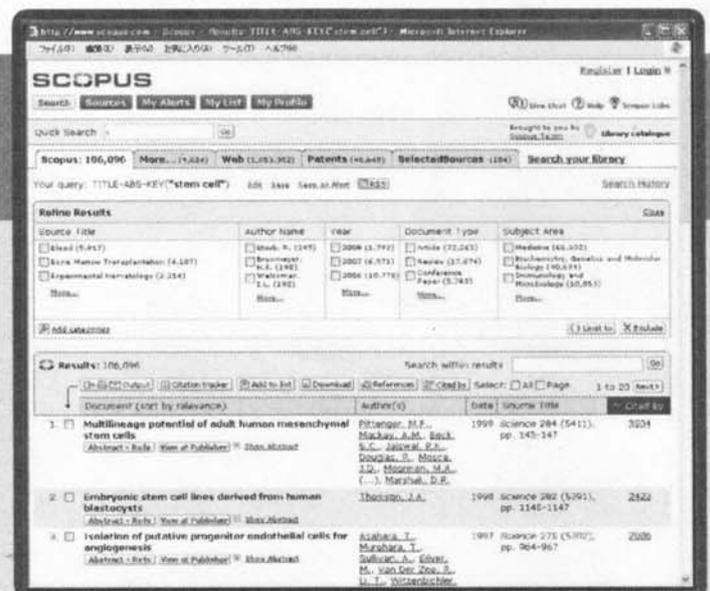
世界最大規模の学術情報ナビゲーションツール  
— 研究者のための書誌・引用文献データベース —  
**Scopus (スコーパス)**

## 圧倒的なコンテンツ量：

- 4,000以上の出版社の15,600以上の学術ジャーナル
- 1996年以降の参考文献情報
- 1800年代からの抄録情報

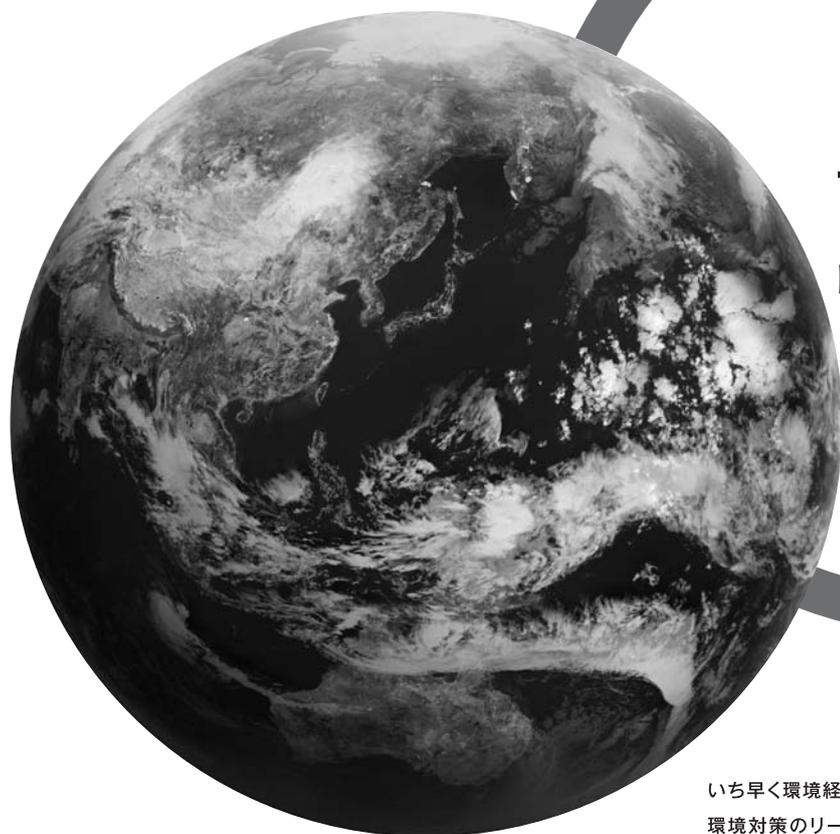
## 研究活動を最適化する支援ツール：

- 引用分析、著者／機関識別機能
- h指数グラフなど、各種グラフ機能



お問い合わせ先  
エルゼビア・ジャパン株式会社  
電子図書館サービス  
TEL: 03-5561-5034 FAX: 03-5561-5047  
E-mail: [jpinfo@scopus.com](mailto:jpinfo@scopus.com)

refine your research  
**SCOPUS™**



## エコ、こそ、 品質です。

いち早く環境経営への取り組みを実践しつづけてきた私たちNECグループには、環境対策のリーディングカンパニーとして蓄積してきた先端技術があります。これらのノウハウを活かし、CO2排出量の削減に貢献する確かなソリューションと製品をご提供します。

人と地球にやさしい情報社会の実現のために、NECグループならではの「高品質なエコ」を、まずは確かめにきてください。

エコこそ品質



NECグループの総合力を、地球のために、そしてあなたの会社のために。CO2排出量削減の品質にこだわった製品・ソリューションをこれからも提供していきます。

### ITによるエコ

CO2排出量削減をはじめ、さまざまな角度からお客様の環境活動をサポートします。

#### ITで環境に貢献

- **次世代データセンター構築ソリューション**  
機器、運用、ファシリティの3つのレベルから省電力&環境対応を推進。
- **UNIVERGEソリューション**  
いつでもどこでもリアルタイムなコミュニケーションで、オフィス・現場のペーパーレス化や移動に伴う環境負荷を軽減。
- **RFID活用ソリューション**  
SCM改革による棚卸、物流などの効率化でCO2排出量削減に貢献、輸送梱包資材のリユース・リサイクル活用を促進。

#### ITで環境業務を支援

- **環境情報マネジメントソリューション [GreenGlobe®]**  
企業内の環境負荷情報を収集・集計して環境業務を効率化。
- **含有化学物質管理ソリューション [ProChemist™]**  
REACH(欧州化学物質規制)に対応するための業務構築からITシステム構築、運用支援までの総合サービス。

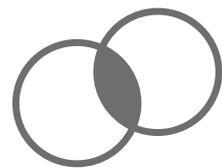
●NECには、その他企業環境経営を支援する39のソリューションがあります。

### ITのエコ

オフィスやデータセンターにおいて、最先端の省電力性能がCO2排出量削減に貢献します。

- |   |  |
|---|--|
| ■ 環境配慮型サーバ<br><b>Express5800<br/>ECO CENTER</b>   | ■ ブレードサーバ<br><b>Express5800<br/>SIGMABLADE</b> |
| ■ PCサーバ<br><b>Express5800<br/>iモデル</b>            | ■ ストレージ<br><b>iStorage</b>                     |
| ■ 仮想PC型<br>シンクライアントシステム<br><b>VirtualPCCenter</b> | ■ ビジネスPC<br><b>VersaPro</b>                    |
| ■ マルチレイヤスイッチ<br><b>IP8800</b>                     | ■ コミュニケーションサーバ<br><b>UNIVERGE</b>              |

●NECには、その他豊富な省電力製品が揃っています。



## IT、で、エコ NECと はじめよう。

# 導入成果の確かさでご好評をいただいています

オートライブの最大の特徴は、膨大な図書・資料を効率的に保管し、合理的な検索・出納システムによって利用者が求めた情報を迅速に、的確に提供できることです。入出庫の速さとともに、図書のサイズ別フリーロケーションとダブルコンテナ格納方式の採用により高密度保管と高速出納を両立させました。



■受注実績 **35件**  
(平成21年3月現在)

■大学納入実績

国際基督教大学 ミルドレッドトップオスマー図書館  
青山学院大学 相模原キャンパス  
大東文化大学 板橋キャンパス  
立命館大学 BKCメディアセンター  
九州大学附属図書館 筑紫分館  
東京大学 柏図書館  
明星大学 日野校図書館  
龍谷大学 瀬田図書館  
聖徳大学附属図書館  
日本体育大学図書館



## オートライブの特長

- ① 図書・資料の限られた空間への大量保管
- ② 出納作業及びカウンター業務の軽減による大幅な省力効果
- ③ 利用者を待たせない高速出納
- ④ 多くの運用システムによる利用者サービスの向上及び管理データの提供

**Auto Lib.**  
自動化書庫・オートライブ

よりよい保管システムを提供する



**日本ファイリング**

日本ファイリング株式会社

本社 / 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-2 (新御茶ノ水アーバンビル)

支店 / 大阪・名古屋 営業所 / 札幌・仙台・大宮・横浜・広島・福岡

ISO14001  
ISO9001  
認証取得企業

資料請求・お問い合わせは ▶ <http://www.nipponfiling.co.jp> ☎0120-808-977 電話受付/月～金(土・日・祝日を除く) 9:00～17:00

無料  
トライアル  
実施中!!



BOOKS-YUSHODO  
オンラインデータベース

# Eighteenth Century Collections Online

## 18世紀英語・英国刊行物データベース

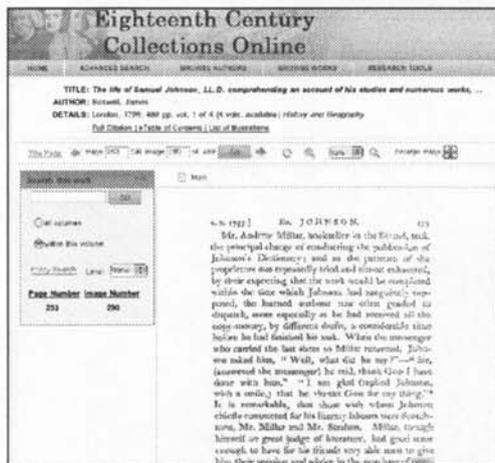
18世紀刊行の英語・英語文献4000万頁をフルテキスト検索!

英語圏の全印刷物を網羅、あらゆる分野・  
形態のものを収録

21世紀の我々がインターネットで様々な情報を引き出せるように、  
18世紀の情報もパソコンで自在に検索できたらー。

18世紀の英語圏刊行物20万点を完全収録し、全文検索を可能にする  
Eighteenth Century Collections Online (ECCO) は、「18世紀のイン  
ターネット」とは言えないまでも、それに限りなく近い環境を研  
究者や学生に提供する画期的なオンライン商品です。ジョンソン、  
ロック、スウィフト、ケンペル、ギボン、その他無数の文筆家た  
ちが遺した4000万頁にのぼる出版物の一語一句まで、お手元のパ  
ソコンで探し当て、原書どおりの画像を閲覧することが可能です。  
ECCOの提供する驚異的な検索・閲覧環境をぜひご体感下さい。

「雄松堂 ECCO」で検索しますと詳細ページにアクセスできます。

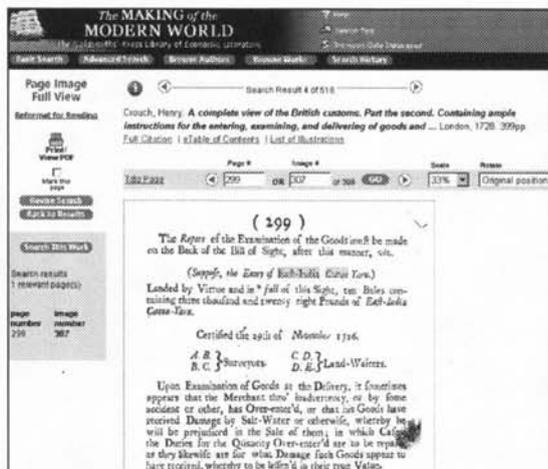


# The Making Of the Modern World

## 社会科学系学術図書データベース

The Goldsmiths'-Kress Library of Economic Literature 1450-1850

「ゴールドスミス・クレス」が、オンラインで閲覧可能に。



「近代」のルーツを探る、世界最高の  
社会経済史コレクション

本データベースは15世紀半ばから1850年までの経済史・経営史・  
社会思想史を中心とする社会科学関係の書籍61,000点、および  
同年代に創刊された定期刊行物466点を収録し、フルテキスト  
検索を可能にする一大データベースです。収録資料は社会科  
学系の歴史的コレクションとして望みうる最高のものである  
とされているロンドン大学ゴールドスミス文庫とハーバ  
ード大学経営大学院クレス文庫の蔵書を原本としており、社会  
科学全域をカバーした1200万ページにもおよぶ資料の検索は  
研究に貴重な資料を供給します。

「雄松堂 MOMW」で検索しますと詳細ページにアクセスできます。

GALE  
CENGAGE Learning

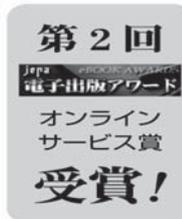


株式会社 雄松堂書店 価格等詳細は小社営業部までお問い合わせ下さい。  
日本総販売代理店 - <http://www.yushodo.co.jp>

〒160-0008 東京都新宿区三栄町29 Tel 03-3357-1411 (代) Fax 03-3356-8730 E-mail: sales@yushodo.co.jp



<http://www.kinokuniya.co.jp/03f/oclc/netlibrary>



NetLibrary は世界最大の図書館ネットワーク OCLC の一部門として、eBook コレクションを提供しています。NetLibrary の eBook は、インターネット環境と Web ブラウザがあればいつでもどこでもアクセスが可能です。学術書を中心に、辞書、百科事典、ハンドブック、専門ガイドなどのレファレンス書、各分野の専門書、ビジネス書、一般書などを刊行する日本・欧米の主要な出版社が参加し、多彩な内容となっています。

**和書コンテンツ好評販売中！** ◆上記 URL にて全タイトルリスト公開中です！◆

#### ◆NetLibrary の特徴◆

- 学術系 eBook を **19 万タイトル以上** 含むコレクションで、**欧米の優良出版社の多数 (約 500)** が参加。**全世界で約 16,000 の機関** が利用しています。
- 書架スペースや書籍の保管、破損、紛失などの問題を考える必要がありません。
- インターネットと Web ブラウザで閲覧でき、専用デバイスやリーダーは不要です。(一部 Adobe®Reader®使用)
- NetLibrary 搭載の **eBook 19 万タイトルすべて (未購入を含む) の横断検索・全文検索** が可能です。
- 著作権の範囲内でコピーまたは印刷することができ、内蔵辞書や付箋、メモなどの便利な機能も利用できます。
- 利用統計の確認、個人アカウントの管理などを行える管理用ツールがあります。
- 購入した eBook については MARC (MARC21 または NACSIS-CAT 形式) が提供されます。
- **多言語インターフェース (日・英・仏・独・西・中・韓・タイ・蘭)** をご用意しております。

#### ◆ご利用方法◆

- NetLibrary サイト (<http://www.netlibrary.com>) にアクセスしてご利用いただきます。
- Windows OS、及び Microsoft Internet Explorer 5.5 以上 / Netscape 6.2 以上 / Mozilla 1.1 以上 / Firefox 1.0 以上 / Opera 7.0 以上のブラウザが必要です。

#### ◆認証方式◆

- IP アドレスによる認証と、個人アカウントによる認証をご利用頂けます。

#### ◆ご購入の条件◆

- NetLibrary eBook はタイトル単位の買い切り商品です。  
ご希望のタイトルやコレクションをご指定ください。個別にお見積もりいたします。
- 同時アクセス数： 1 タイトル 1 ユーザー (複本購入によって同時アクセス数を増やすことが可能です)

#### ◆日本の参加出版社◆ (2009 年 3 月 11 日現在・50 音順・予定を含む)

明石書店、朝倉書店、朝日新聞出版、アルク、岩波書店、エヌ・ティー・エス、紀伊國屋書店出版部、  
京都大学学術出版会、くろしお出版、慶應義塾大学出版会、研究社、勁草書房、三省堂、シュプリング・  
ジャパン、春秋社、小学館、水曜社、誠信書房、青土社、創元社、大修館書店、玉川大学出版部、中央公論新社、  
中央法規出版、築地書館、電気書院、東京大学出版会、東京電機大学出版局、日本評論社、白水社、白桃書房、  
ひつじ書房、法政大学出版局、歩行開発研究所、みすず書房、ミネルヴァ書房、未来社、有斐閣、吉川弘文館、  
理工図書、早稲田大学出版部

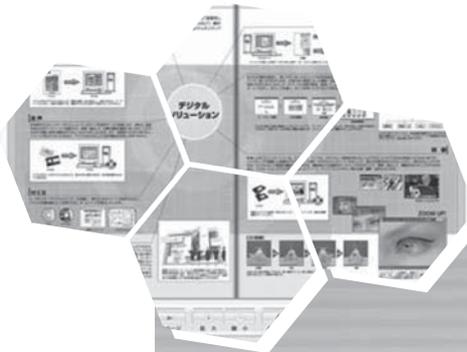


弘前営業所 Tel: 0172-36-3755 Fax: 0172-66-5649 Mail: [hirosaki@kinokuniya.co.jp](mailto:hirosaki@kinokuniya.co.jp)  
仙台営業所 Tel: 022-227-0301 Fax: 022-266-5312 Mail: [sendai@kinokuniya.co.jp](mailto:sendai@kinokuniya.co.jp)

For the wisdom into the Next.

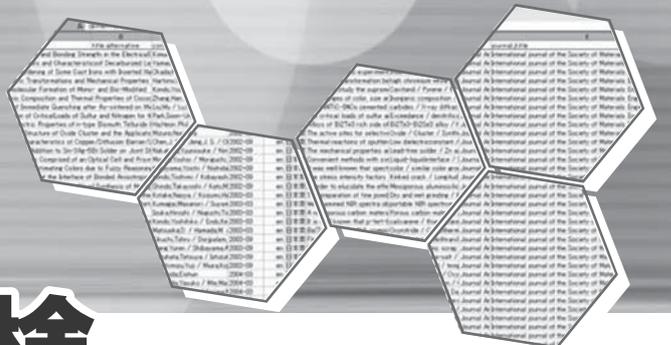
コレクション  
ドキュメント  
の活用のための

# DIGITAL SOLUTIONS



**画** 像データ作成

**機** 関リポジトリサポート



**長** 期保存対策

**検** 索用メタデータの作成

研究・公開・利用のための、貴重資料や研究成果物などの電子化。  
再利用・バックアップ・保管コスト削減のための、書類・図面などのデータ化。  
共有・活用、長期保存など、大切な情報資産の有効に欠かせないデジタル化に対し、効率のよい  
データ化・コンテンツづくりから、システム構築・Web公開・運用、長期保存対策まで、ワンストップ  
でサポートします。

**ナカバヤシ株式会社** 図書館サポートカンパニー

仙台営業所 〒984-0002 仙台市若林区卸町東1丁目6-27 TEL:022-284-3045 FAX:022-239-7550

東京本社	〒174-8602	東京都板橋区東坂下2丁目5-1	TEL:03-3558-1251	FAX:03-3558-1260
大阪支社	〒536-0005	大阪市城東区中央2丁目1-23	TEL:06-6930-6668	FAX:06-6935-2667
名古屋支店	〒456-0053	名古屋市熱田区一番2丁目2-6	TEL:052-661-3771	FAX:052-661-3775
福岡支店	〒812-0051	福岡市東区箱崎ふ頭5丁目7-11	TEL:092-641-3661	FAX:092-641-3699

PDFデータ入稿で、原稿を持ち込むことなく製本づくり。  
FUERU FINEBOOK: <http://www.fueru.jp/finebook/>

E-mail: [toshokan@nakabayashi.co.jp](mailto:toshokan@nakabayashi.co.jp)

# 丸善の図書保管サービス

## 本の保管・引越し、お任せ下さい



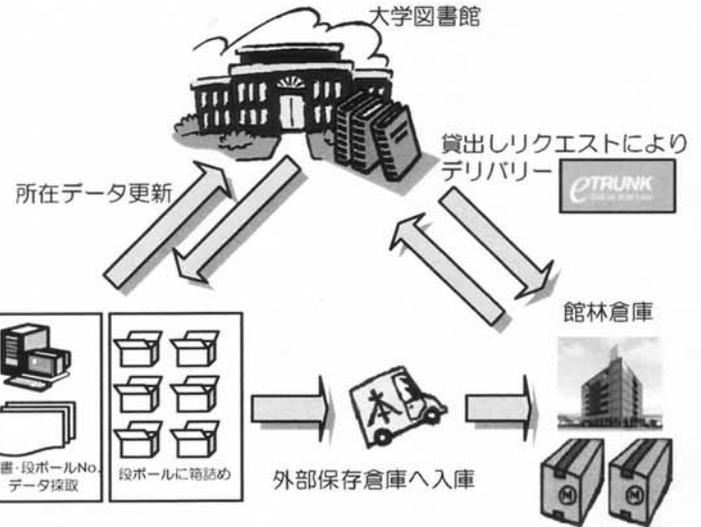
図書・雑誌の保管スペースは充分ですか  
 図書配架に窮屈が発生していませんか  
 カリキュラムの編成に合せた配架は充分ですか  
 利用者サービススペースは充分ですか  
 分室・資料室の整理は進んでいますか



専用の保管箱でお預かりします  
 定温定湿、免震・防火対策・セキュリティ体制の  
 整備された環境で保管します  
 箱単位で、一冊ずつ図書データを採取し提供いたします



お預かりした図書・雑誌が必要になりましたら  
 専用Webサイト(eTRUNK)でお申込み下さい  
 宅配便・巡回便にてお届けします  
 倉庫内での閲覧スペースもご用意しております



月額保管料金(群馬県 館林倉庫)

	菊版図書17mm換算 150mm×220mm	A4図書17mm換算 210mm×297mm
文書専用保存箱 月額135円 33cm×42cm×29cm	57冊	28冊
書籍専用保存箱 月額120円 33cm×36cm×27cm	44冊	24冊



個人蔵書にも対応いたします  
 図書館のプロがお手伝いします  
 現地での閲覧も可能!

お問い合わせ先



ESTABLISHED IN 1869

丸善株式会社 教育・学術事業本部  
 ソリューションセンター 図書館サービスセンター  
 〒103-8244 東京都中央区日本橋3-9-2 4F  
 TEL (03)3273-2105 FAX: (03)3273-2124



---

東北地区大学図書館協議会誌 第 60 号

平成 21 年 4 月

発 行 仙台市青葉区川内 27 - 1 東北大学附属図書館内  
東北地区大学図書館協議会  
☎ (022) 795 - 5910

編 集 仙台市青葉区川内 27 - 1 東北大学附属図書館

---